

# シラバス

(2022年度)



学校法人巨樹の会  
武雄看護リハビリテーション学校  
看護学科

# 目 次

## 【教育課程内訳・評価計画】

教育課程内訳	1
看護学科 評価計画	2～4

## 【基礎分野】

論理学	5
健康科学	6
情報リテラシー	7
心理学	8
成長発達論	9
人間関係論	10
倫理学	11
教育学	12
家族社会学	13
文化人類学	14
暮らしの科学	15
国際関係論	16
医療英会話	17
運動科学	18

## 【専門基礎分野】

人体の発生と構造・血液の成分と機能	19
呼吸・循環の構造と機能	20
消化・内分泌・腎泌尿・生殖の構造と機能	21
脳神経・骨格・筋・感覚の構造と機能	22
生化学	23
病理学	24
健康障害と治療 I (呼吸器・循環器・血液造血器)	25

微生物学	.....	26
栄養学	.....	27
薬理学 I (総論)	.....	28
総合医療論	.....	29
人々の暮らしと健康支援	.....	30

**【専門分野】**

看護学概論	.....	31
共通看護技術 1	.....	32
共通看護技術 2	.....	33
日常生活援助技術 1	.....	34
日常生活援助技術 2	.....	35
ヘルスアセスメント	.....	36
診療に伴う看護技術 1	.....	37
看護過程	.....	38
臨床看護総論	.....	39
地域看護概論	.....	40
家族看護論	.....	41
成人看護学概論	.....	42
老年看護学概論	.....	43
小児看護学概論	.....	44
専門職連携の基礎	.....	45

教育課程内訳

評価計画

分野	教育内容	授業科目名	単位	時間	実施学年・時間				
					1年	2年	3年		
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30	30				
		健康科学	1	15	15				
		情報リテラシー	1	30	30				
	人間と生活・社会の理解	心理学	1	30	30				
		成長発達論	1	30	30				
		人間関係論	1	30	30				
		倫理学	1	15	15				
		教育学	1	15	15				
		家族社会学	1	30	30				
		文化人類学	1	15	15				
		暮らしの科学	1	15	15				
		国際関係論	1	15	15				
	医療英会話	1	30	30					
	運動科学	1	15	15					
基礎分野 小計			14	315	315	0	0		
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の発生と構造・血液の成分と機能	1	30	30				
		呼吸・循環の構造と機能	1	30	30				
		消化・内分泌・腎泌尿・生殖の構造と機能	1	30	30				
		脳神経・骨格・筋・感覚の構造と機能	1	15	15				
	疾病の成り立ちと回復の促進	生化学	1	30	30				
		病理学	1	30	30				
		健康障害と治療Ⅰ (呼吸器・循環器・血液造血器)	1	30	30				
		健康障害と治療Ⅱ (消化器・腎泌尿器・女性生殖器)	1	30	30		30		
		健康障害と治療Ⅲ (脳神経・運動器・感覚器)	1	30	30		30		
		健康障害と治療Ⅳ (内分泌・膠原病・感染症・アレルギー)	1	30	30		30		
		微生物学	1	30	30				
		がんと治療	1	15	15		15		
		栄養学	1	30	30				
		薬理学Ⅰ(総論)	1	15	15				
	薬理学Ⅱ(臨床薬理)	1	15	15		15			
	臨床推論	1	15	15		15			
	健康支援と社会保障制度	総合医療論	1	15	15				
		人々の暮らしと健康支援	1	15	15				
		カウンセリング概論	1	15	15		15		
		公衆衛生学	1	30	30		30		
		社会福祉	1	30	30		30		
	看護関係法規	1	30	30		30			
専門基礎分野小計			22	540	300	150	90		
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	30				
		共通看護技術1	1	30	30				
		共通看護技術2	1	30	30				
		日常生活援助技術1	1	30	30				
		日常生活援助技術2	1	30	30				
		ヘルスアセスメント	1	30	30				
		診療に伴う看護技術1	1	30	30				
		診療に伴う看護技術2	1	15	15		15		
		看護過程	1	30	30				
		臨床看護総論	1	15	15				
		看護研究の基礎	1	30	30		30		
		専門分野(基礎看護学)小計			11	300	255	15	30

分野	教育内容	授業科目名	単位	時間	実施学年・時間		
					1年	2年	3年
専門分野	地域・在宅看護論	地域看護概論	1	30	30		
		地域看護活動の展開	1	15	15		
		家族看護論	1	15	15		
		在宅看護概論	1	15	15		
		在宅看護援助論	1	30	30		
		在宅看護演習	1	30	30		
	成人看護学	成人看護学概論	1	30	30		
		成人看護学慢性期援助論	1	30	30		
		成人看護学慢性期演習	1	30	30		
		成人看護学急性期援助論	1	30	30		
		成人看護学急性期演習	1	30	30		
		成人看護学終末期援助論	1	30	30		
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	30		
		老年看護学援助論	1	30	30		
		高齢者の健康障害と看護	1	30	30		
	老年看護学演習	1	15	15			
	小児看護学	小児看護学概論	1	15	15		
		小児看護学援助論	1	30	30		
		小児の健康障害と看護	1	30	30		
		小児看護学演習	1	30	30		
	母性看護学	母性看護学概論	1	15	15		
		妊娠期・分娩期の看護	1	30	30		
		産褥期・新生児期の看護	1	30	30		
		母性機能に障害をもつ人の看護	1	30	30		
	精神看護学	精神看護学概論	1	15	15		
		心の健康	1	30	30		
		心の健康障害と看護	1	30	30		
		精神看護学演習	1	30	30		
	看護の統合と実践	専門職連携の基礎	1	15	15		
		専門職連携の構築	1	15	15		
		医療安全	1	15	15		
		国際看護	1	15	15		
		災害看護	1	15	15		15
看護管理		1	15	15		15	
統合看護演習	1	30	30		30		
専門分野小計			35	855	135	660	60
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	45			
	基礎看護学実習Ⅱ	2	90	90			
	地域看護実習Ⅰ	1	45	45			
	地域看護実習Ⅱ	1	45	45			
	在宅看護論実習	2	90	90			
	成人・老年看護学慢性期実習	2	90	90			
	成人・老年看護学急性期実習	2	90	90			
	成人・老年看護学終末期実習	2	90	90			
	老年看護学実習	2	90	90			
	小児看護学実習	2	90	90			
	母性看護学実習	2	90	90			
	精神看護学実習	2	90	90			
	統合実習	2	90	90			
臨地実習小計			23	1035	90	315	630
専門分野小計			69	2190	480	990	720

教育内容	単位	総時間数	1年	2年	3年
基礎分野	14	315	315	0	0
専門基礎分野	22	540	300	150	90
専門分野	69	2190	480	990	720
合計	105	3045	1095	1140	810

評価計画（2022年）

分野	授業科目	単元	履修学年	単位	時間	配点	満点	評価責任者	
基礎分野	論理学		1年	1	30	100	100	内田 友子	
	健康科学		1年	1	15	100	100	木村 公喜	
	情報科学		1年	1	30	100	100	高崎 光浩	
	心理学		1年	1	30	100	100	遠藤 史絵	
	成長発達論		1年	1	30	100	100	東 巧	
	人間関係論		1年	1	30	100	100	上瀧 純一	
	倫理学		1年	1	15	100	100	国越 道貴	
	教育学		1年	1	15	100	100	安部 芳樹	
	家族社会学		1年	1	30	100	100	永吉 守	
	文化人類学		1年	1	15	100	100	永吉 守	
	暮らしの科学		1年	1	30	100	100	豊増 美喜	
	国際関係論		1年	1	30	100	100	山根 健至	
	医療英会話		1年	1	30	100	100	高木 仁美	
	運動科学		1年	1	15	100	100	秋山 嘉和	
専門基礎分野	人体の発生と構造・血液の成分と機能		1年	1	30	100	100	村田 潤	
	呼吸・循環の構造と機能		1年	1	30	100	100	村田 潤	
	消化・内分泌・腎泌尿・生殖の構造と機能		1年	1	30	100	100	北嶋 修司	
	脳神経・骨格・筋・感覚の構造と機能		1年	1	30	100	100	坂本 飛鳥	
	生化学		1年	1	30	100	100	北垣 浩志	
	疾病の発生と病理的变化		1年	1	30	100	100	中野 龍治	
	健康障害と治療Ⅰ (呼吸器・循環器・血液造血器)	呼吸器・血液	1年	1	30	17	70	100	池上 智美
		循環器				5	30		
						8			
	健康障害と治療Ⅱ (消化器・腎泌尿器・女性生殖器)	消化器	2年	1	30	18	70	100	
		腎泌尿器				8	30		
		女性生殖器				4			
	健康障害と治療Ⅲ (脳神経・運動器・感覚器)	脳神経	2年	1	30	15	50	100	
		運動器				9	50		
		感覚器				4			
	健康障害と治療Ⅳ (内分泌・膠原病・感染症・アレルギー)		2年	1	30	100	100		
	微生物学		1年	1	30	100	100	菖蒲池 健夫	
	がんと治療		2年	1	15	100	100		
	栄養学		1年	1	30	100	100	松尾 麻衣	
	薬理学Ⅰ（総論）		1年	1	15	100	100	西村 直寛	
薬理学Ⅱ（臨床薬理）		2年	1	30	100	100			
総合医療論		1年	1	15	100	100	樋高 克彦		
人々の暮らしと健康支援		1年	1	15	100	100	山口 真喜子		
公衆衛生学		3年	1	30	100	100			
社会福祉		3年	1	30	100	100			
関係法規		3年	1	30	100	100			

分野	授業科目	単元	履修学年	単位	時間	配点	満点	評価責任者	
専門分野	看護学概論		1年	1	30	100	100	太田 由美子	
	共通看護技術 1		1年	1	30	100	100	樺澤 秀美	
	共通看護技術 2		1年	1	30	26 4	80 20	100	石丸 律子 永尾 早苗
	日常生活援助技術 1		1年	1	30	100	100	中原 輝子	
	日常生活援助技術 2		1年	1	30	24 6	80 20	100	中原 輝子 永尾 早苗
	ヘルスアセスメント		1年	1	30	36 4	100	100	中原 輝子 永尾 早苗
	診療に伴う看護技術 1		1年	1	30	100	100	樺澤 秀美	
	診療に伴う看護技術 2		2年	1	15	100	100		
	看護過程		1年	1	30	100	100	古賀 恭子	
	臨床看護総論		1年	1	15	50	100	山口 真喜子	
	看護研究の基礎		3年	1	30	100	100		
	地域看護概論		1年	1	30	5 25	20 80	100	樺澤 秀美 山口 真喜子
	地域看護活動の展開		2年	1	15	100	100		
	家族看護論		1年	1	15	100	100	納富 裕子	
	在宅看護概論		2年	1	15	100	100		
	在宅看護援助論		2年	1	30	100	100		
	在宅看護演習		2年	1	30	100	100		
	成人看護学概論		1年	1	30	100	100	古賀 恭子	
	成人看護学慢性期援助論		2年	1	30	100	100		
	成人看護学慢性期演習		2年	1	30	100	100		
	成人看護学急性期援助論		2年	1	30	100	100		
	成人看護学急性期演習		2年	1	30	100	100		
	成人看護学終末期援助論		2年	1	30	35	100		
	老年看護学概論		1年	1	30	100	100	坂本 清	
	老年看護学援助論		2年	1	30	100	100		
	高齢者の健康障害と看護		2年	1	30	50	100		
	老年看護学演習		2年	1	15	100	100		
	小児看護学概論		1年	1	15	100	100	工藤 広大朗	
	小児看護学援助論		2年	1	30	100	100		
	小児の健康障害と看護		2年	1	30	100	100		
	小児看護演習		2年	1	15	100	100		
	母性看護学概論		2年	1	15	100	100		
	妊娠期・分娩期の看護		2年	1	30	100	100		
	産褥期・新生児期の看護		2年	1	30	100	100		
母性機能に障害をもつ人の看護		2年	1	30	50	100			

分野	授業科目	単元	履修学年	単位	時間	配点	満点	評価責任者
専門分野	精神看護学概論		2年	1	15	100	100	
	心の健康		2年	1	30	100	100	
	心の健康障害と看護		2年	1	30	100	100	
	精神看護学演習		2年	1	30	50	100	
	専門職連携の基礎		1年	1	15	100	100	工藤 広大朗
	専門職連携の構築		2年	1	15	100	100	
	医療安全		2年	1	15	100	100	
	国際看護		2年	1	15	100	100	
	災害看護		3年	1	15	100	100	
	看護管理		3年	1	15	100	100	
	統合看護演習		3年	1	30	100	100	

# 基礎分野

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
基礎	論理学	講義	1 (30)	1年 前期	内田友子

授 業 概 要

迅速かつ適切な判断力と明快かつ正確な伝達能力は、医療の現場では特に不可欠である。この授業では、これらの能力の基盤となる論理的な思考や表現力を学ぶ

到 達 目 標

物事に対する考え方の多様性を客観的に把握した上で、状況に応じて最も適切な判断を行い、自分の考えを明確に説明できる論理的思考と伝達能力を身につけることができる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	<input type="radio"/> 1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	<input type="radio"/> 2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	<input type="radio"/> 3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	<input type="radio"/> 4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力を身につけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身につけることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	論点の抽出と整理	概念の把握法、状況設定の把握法	
2	論点の抽出と整理	文章の要約法	
3	多角的な読解力	多角的な読解力	
4	文章構成力	語句の使用法 上位、下位概念 具体、抽象 語の外延と内包	
5	文章構成力	文章の書き方 主述の対応 修飾法 文章表現	
6	文章構成力	文章の書き方 文種識別 命題	
7	文章構成力	文章構成法 論証の構造 演繹 帰納	
8	文章構成力	文章構成法 三段論法 トウルミンモデル	
9	文章構成力	文章構成法 誤った推論 ことばの魔術破り	
10	表現力・伝達力	声で意味を明確に伝える技術	
11	表現力・伝達力	声で意味を明確に伝える技術	
12	表現力・伝達力	さまざまな状況(業務連絡)や対象(人数・年齢)などを想定し、それに応じた実践的な伝達方法を練習する。	
13	表現力・伝達力	さまざまな状況(業務連絡)や対象(人数・年齢)などを想定し、それに応じた実践的な伝達方法を練習する。	
14	表現力・伝達力	さまざまな状況(業務連絡)や対象(人数・年齢)などを想定し、それに応じた実践的な伝達方法を練習する。	
15	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
基礎	健康科学	講義	1 (15)	1年次	木村 公喜

授 業 概 要

医療現場で役立つ生活習慣病の予防・改善、ダイエットや整形外科系疾患のためのトレーニングや健康づくりの実際を修得する。健康科学が仕事としてどう活用されているかを学び、その魅力を学習する。

到 達 目 標

- 1) 身体活動時の体内状態を、単に机上の論にとどまることなく市場の実際として役立つように、事例と合わせて学習する。身体適応を科学し、その意義を考え、運動指導時の科学的基礎を習得する。
  - 2) 身体活動の特性と期待できる効果について科学的裏づけをもとに学習し、無酸素性作業閾値などから、目的に応じた運動強度を判断できるように図る。また、エアロビクスや健康づくりの指標となる最大酸素摂取量やエネルギー供給機構の関係から、運動強度（脈拍数によるチェック）・運動時間・運動頻度を求め適切な運動プログラムが作成できるようにする。
- ・減量や生活習慣病予防のための健康づくりなどの科学的裏付けと実際の実施方法を修得する。
  - ・目的別トレーニング方法を学習する。
  - ・学習したことが医療ビジネスとして成立するように理解する。
  - ・理論にとどまらず、現場で指導できるように理解する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む  
事後学習：プリント等復習を行う

対応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野をもち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら"たんきゅう"する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	オリエンテーション	健康科学・運動生理学・運動栄養学とはとその可能性と魅力	
2	目的別運動効果がわかる	有酸素運動・無酸素運動、トレーニング効果	
3	トレーニングの急所	運動強度の違いが代謝、骨格筋に及ぼす生理学的効果	
4	健康づくり	健康づくりのための身体活動、健康と食事について	
5	呼吸循環器の基礎	酸素摂取量・心拍数・血圧と運動強度別変化	
6	運動と免疫と健康体温の関係 ヒトがもつ優れた能力	運動時のホメオスタシス、体温調節	
7	メタボリック対策の理解	メタボリック対策の理解 総まとめ	
8	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
基礎	情報リテラシー	講義	1 (30)	1年 後期	高崎 光浩

授 業 概 要

根拠に基づく医療・看護(EBM：Evidence Based Medicine, EBN：Evidence Based Nursing)を実践するために不可欠な、情報処理に関するリテラシーを身につける。医療分野におけるICT(Information and Communication Technology：情報通信技術)利活用について理解する。

到 達 目 標

情報通信技術を活用して安全に効率よく操作できる能力を修得できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力を身につけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身につけることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	コンピューターの基礎	Windowsの基本操作	
2	コンピューターの基礎	Wordの活用 図や表の作成 罫線を使ったフォーマット作成	
3	コンピューターの基礎	Wordの活用 差し込み印刷を使う 表計算機能の使用法 文章を作成する	
4	コンピューターの基礎	Excelの活用 基礎データ入力 基本数式の使い方 レイアウトを整える 印刷の方法	
5	コンピューターの基礎	Excelの活用 グラフの作り方 データベースとしての使い方 関数の入った表の作り方	
6	コンピューターの基礎	プレゼンテーションソフトの活用	
7	文献情報の検索・統計	統計ソフトの演習 データの種類と集計方法 解析データの作成	
8	文献情報の検索・統計	統計ソフトの演習 データの種類と集計方法 解析データの作成	
9	文献情報の検索・統計	統計ソフトの演習 データの種類と集計方法 解析データの作成	
10	情報科学の基礎	コンピューターとネットワーク	
11	医療と情報システム	医療情報とはなにか 医療と情報 看護と情報 病院情報システム	
12	医療と情報システム	病院における看護情報システム 電子カルテについて 経過と現状	
13	院内情報システムと情報倫理	院内情報システムと情報倫理 要配慮個人情報とは 要配慮個人情報の具体例	
14	院内情報システムと情報倫理	個人情報の取り扱い保護と有効活用	
15	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
基礎	心理学	講義	1 (30)	1年 前期	遠藤史絵

授 業 概 要

人の心の多様性、主観性について、様々な心理学の領域を通して学ぶことを目的とする。  
 対人援助職である看護師としていろいろな患者に接する機会があるが、それぞれの患者の多様な気持ちを、患者の立場に立って理解ができるよう学習を進める。

到 達 目 標

心理・行動・身体の3側面からの心のメカニズムを理解できる。相手の身になって話を聞き、理解しようとする態度を身につけることができる。心理的アプローチを学び、様々な側面から患者を援助する方法を修得できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	○	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	○	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
		5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる		6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる		7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	心理学の問題	心理学の発展 心理学の対象 心の見方の歴史 心理学の研究手法	
2	知覚の心理	知覚の成立 知覚の種類 知覚研究の応用	
3	記憶の心理	記憶の諸相 忘却の心理 記憶のくふう	
4	思考・想像・言語の心理	思考・想像の心理 言語の心理	
5	知能の心理と知能検査	知能の心理 知能検査	
6	学習の心理	学習の心理 練習の心理	
7	感情・情緒・情操の心理	感情の諸相 感情・情緒の異常	
8	適応の心理	人と環境 適応・不適応 適応の機制	
9	性格の心理と性格検査	性格の形成 性格の理解	
10	集団の心理	集団の形成と機能 集合行動	
11	発達心理	発達の原理 発達段階の特徴	
12	カウンセリング	カウンセリングの意義	
13	カウンセリング	カウンセリングの方法	
14	医療と心理学	医療と心理学の役割 患者の心理	
15	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
基礎	成長発達論	講義	1 (30)	1年 前期	東 巧

授 業 概 要

人間の一生涯という全行程を発達のプロセスとしてとらえ、人のライフサイクルにおける各期の身体的・知的・情緒的・社会的な側面が機能的に関連しあって変化していくプロセスを理解し考察する。

到 達 目 標

人間のライフサイクルを理解し、各期における成長、発達の特徴、課題、問題発生の対処法、関係法規、社会問題等をふまえて、人間の発達を理解することができる。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	○ 1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 人間をあらゆる側面から統合的に捉え、生活を営む存在として幅広く捉えることができる	○ 3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	人間と発達	人間発達学とその意義 人間発達学における発達とその関連用語 発達に影響を及ぼす因子	
2	発達理論とその歴史的展開	発達理論を理解する前提 発達理論の歴史的展開 現代の発達理論	
3	乳幼児期の心と身体	心と身体の特徴 形態・機能的側面の発達 心理・社会的側面の発達 発達の評価	
4	乳幼児期の心と身体	発達に関わる健康上の問題 発達に必要な身体的・心理的・社会的支援	
5	学童期の心と身体	心と身体の特徴 形態・機能的側面の発達 心理・社会的側面の発達 発達の評価	
6	学童期の心と身体	発達に関わる健康上の問題 発達に必要な身体的・心理的・社会的支援	
7	思春期の心と身体	心と身体の特徴 形態・機能的側面の発達 心理・社会的側面の発達 発達の評価	
8	思春期の心と身体	発達に関わる健康上の問題 発達に必要な身体的・心理的・社会的支援	
9	青年期の心と身体	心と身体の特徴 形態・機能的側面の発達 心理・社会的側面の発達 発達の評価	
10	青年期の心と身体	発達に関わる健康問題 健全な発達に必要な支援	
11	成人期の心と身体	心と身体の特徴 形態・機能的側面の発達 心理・社会的側面の発達 発達の評価	
12	成人期の心と身体	健康問題 健全な発達に必要な支援	
13	老年期の心と身体	心と身体の特徴 形態・機能的側面の発達 心理・社会的側面の発達 発達の評価	
14	老年期の心と身体	健康問題 健全な発達に必要な支援	
15	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	看護のための人間看護学 舟島なおみ 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
基礎	人間関係論	講義	1 (30)	1年 前期	上瀧 純一

授 業 概 要

講義・グループワークを通して、人間関係について多角的に学ぶ。  
看護職としての患者さんたちへの関わり方について学ぶ。

到 達 目 標

自己理解・他者理解を深め人間関係能力が向上する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	○ 1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることが出来る。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	○ 6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら“たんきゅう”する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	人間存在と人間関係	人間関係のとらえかたの次元 人間関係の基本的知識 関係的存在としての人間 社会化としての人間発達	
2	人間存在と人間関係	看護ケアや社会福祉援助における人間関係のとらえ方 対話的關係の展開	
3	社会的相互作用と社会的役割	人間関係における社会的相互作用 社会的相互作用とその諸相 社会的相互作用を規定する要因	
4	社会的相互作用と社会的役割	社会的役割 社会的役割とは 役割関係における葛藤とその解決	
5	社会的相互作用と社会的役割	看護における相互作用と役割 チーム医療における援助的役割関係	
6	社会的相互作用と社会的役割	患者－看護師関係における相互作用 段階別による援助的役割	
7	社会的相互作用と社会的役割	患者－看護師関係における役割の変遷 相互行為から相互浸透行為へ	
8	人間関係の向上へのスキル	対人関係と役割 対人関係の成立 対人関係の維持と崩壊	
9	人間関係の向上へのスキル	態度と対人行動	
10	人間関係の向上へのスキル	集団の特性 集団での課題遂行 集団での問題解決と意思決定 リーダーシップ	
11	人間関係の向上へのスキル	体験学習とは 体験学習のプロセス 体験学習の効果	
12	人間関係の向上へのスキル	体験学習とは 体験学習のプロセス 体験学習の効果	
13	人間関係の向上へのスキル	体験学習での基本姿勢	
14	人間関係の向上へのスキル	体験学習の源流 Tグループ エンカウンターグループ	
15	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
基礎	倫理学	講義	1 (15)	1年 後期	国越 道貴

授 業 概 要

将来、看護師として患者の生や死に直接関わっていくとき、適切な判断のもとでケアにあたっていけるようになるよう、医療のなかで目指されるべきまた考慮されるべき価値について学びます。

到 達 目 標

倫理的問題を含む医療上の事柄について、一般に採用される対処方法およびその対処方法が取られる理由を説明することができる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	○ 1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	○ 3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	○ 6. 社会の変化に対応できる幅広い視野をもち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	インフォームド・コンセント	医療で新しく確立された最も重要な価値である「自己決定権の尊重」について学ぶ。	
2	ターミナル・ケア	今日「人生の最終段階の医療」といわれる領域について、その先駆者キューブラ・ロスから学ぶ。	
3	安楽死と尊厳死	安楽死と尊厳死が、日本の現行法で容認されるための条件を確認し、特に本人の意思の扱い方を学ぶ。	
4	臓器移植と脳死	臓器移植にかかわるなかで、人の死が脳死判定によって決められることの意味を学ぶ。	
5	出生前診断と人工妊娠中絶	人工妊娠中絶のうち、出生前診断による「選択的」と呼ばれ中絶について学ぶ。	
6	生殖補助医療	認められうる範囲、そして実施されて初めて明らかになった諸問題を学ぶ。	
7	医療資源の配分/ 看護師の倫理	医療倫理における4つの原理のうち、正義(公正)にかかわる「医療資源の配分」について学ぶ。また、看護師の職業倫理から特に守秘義務について学ぶ。	
8	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	はじめて出会う生命倫理 玉井真理子・大谷いづみ 編 有斐閣 2011
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
基礎	教育学	講義	1 (15)	1年 後期	安部 芳樹

授 業 概 要

看護師も教師も、人間を対象とした仕事である。看護師が患者中心の看護を行うように、教育も生徒をないがしろにした教育は難しい。教育に関する講義を通し、人間理解、社会理解を深め、看護にあたる時の参考になる講義に努める。

到 達 目 標

教育学の基礎的な知識を身に付けることや、他者の意見を聞き援助を行う為のコミュニケーション能力を身につけることができる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	○ 1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 人間をあらゆる側面から統合的に捉え、生活を営む存在として幅広く捉えることができる	○ 3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	○ 4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力を身につけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	○ 6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身につけることができる	○ 7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内容	担当教員
1	人間の成長と教育の意義	・教育の意義 ・学校の教育 ・人間の成長と発達	阿部
2	人間の成長と教育の意義	・人間の生成への環境の影響 ・意図的 ・無意図的な人間形成作用と教育	阿部
3	教育を構成するものについて	・学ぶ ・教えるということ	阿部
4	教育の目的	わが国現行法の教育の目標と目的（新教育基本法）	阿部
5	学習指導	・学習指導要領と教育	阿部
6	教育の目標と評価	・教育評価 ・教師像 ・教育評価の方法	阿部
7	現代教育の課題	・教育とジェンダー	阿部
8	終講時試験	筆記試験	阿部

評価	筆記試験100%（小テストは参考程度）
テキスト	プリント配布
参考図書	適宜指示
留意事項	各講義の終わりの小テストを実施

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
基礎	家族社会学	講義	1 (30)	1年 前期	永吉守

授 業 概 要

私たちの多くは、家族というものを「あたりまえ」のものだと思っています。確かに家族は地球規模でも人間の社会に普遍的なものです。しかしながら、家族のありかたは決して「あたりまえ」ではありません。国家や民族によって異なるのみならず、それぞれの家族によっても異なっています。この授業では、そのような家族のありかたについての「あたりまえ」がいかに多種多様であるかを提示し、看護において必要な「家族」および「社会」に関する基礎知識を習得するとともに、それらに対する柔軟な考え方を身につけることを目的とします。

到 達 目 標

家族、社会について自分のこと、患者、地域社会とひきつけ考えることができる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：予定されている回の用語（下記それぞれの回の『内容』）等、各自予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	○ 1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることが出来る。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	○ 6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身につけることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	イントロダクション、看護学校で家族社会学を学ぶ意義	自己紹介、家族社会学という科目の位置づけ	永吉
2	「社会」とは何か	「社会」という概念の誕生とその歴史的変遷、学問的な位置づけ	永吉
3	社会学と家族社会学	社会学という学問について、家族社会学という学問について	永吉
4	家族・親族・出身・婚姻その①	家族・親族・親戚・家系図・出自	永吉
5	家族・親族・出身・婚姻その②	出自と家族、親族、婚姻形態	永吉
6	家族・親族・出身・婚姻その③	婚姻形態や家族・親族組織のバラエティ	永吉
7	ジェンダーと家族その①	ジェンダーとSOGI	永吉
8	ジェンダーと家族その②	ジェンダーとSOGI、炭鉱に生きた女性とジェンダー	永吉
9	日本の家族の歴史と現代日本の家族	イエ制度、家父長制、近代家族、現代家族、ジェンダー	永吉
10	人の死と家族および社会その1	「死」について、社会的な「死」と家族・親族関係	永吉
11	人の死と家族および社会その2	社会的な「死」と家族・親族関係、葬送儀礼	永吉
12	病気・医療と社会・家族その1	「病気」概念・医療と家族（医療社会学・医療人類学の視点より）	永吉
13	病気・医療と社会・家族その2	現代医療と医療社会学・医療人類学、多様な医療・多様な家族	永吉
14	親密圏と公共圏	親密圏、公共圏、グローバルな「(新)親密圏と公共圏」、互報性	永吉
15	まとめとレポート提出 (終講時試験として)	まとめ/レポート提出（終講時試験として）	永吉

評価	レポート100%
テキスト	特に用いないが、下記参考図書（医学書院・系統看護学講座）の該当部分はダウンロードして適宜参照。
参考図書	医学書院系統看護学講座『社会学』『文化人類学』『家族看護学』『在宅看護論』『家族論・家族関係論』（絶版）ほか適宜指示
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
基礎	文化人類学	講義	1 (15)	1年 前期	永吉守

授 業 概 要

現代はグローバル化（グローバリゼーション）の時代といわれています。それは看護の分野でも例外ではなく、現代日本においては看護や介護の分野で海外からの人々を受け入れる時代に入ってきています。我々は否応なく海外の様々な人々、モノとつながっているのです。そのような中で必要とされるのは、異文化を理解し、さらに自らの文化を客観視したうえで行動する、ということだと思います。文化人類学の授業では、そうした我々の「常識」を解体し、多様な文化を知ったうえで異文化に接する基礎知識を学ぶことを目的とします。

到 達 目 標

文化についての多様なあり方について知識を習得する。異文化・多文化の状況中で医療従事者としての接し方について考えることができる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 P	○ 1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	○ 6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	イントロダクション、文化人類学と文化概念	文化人類学とはどのような学問か、「文化」の概念	永吉
2	文化相対主義と自民族中心主義	自民族中心主義、文化相対主義、文化相対主義の効用と限界	永吉
3	グローバル化（グローバリゼーション）その1	グローバル化、グローカリゼーション	永吉
4	グローバル化（グローバリゼーション）その2	グローバル化、グローカリゼーション、海外旅行写真にみるグローバル化	永吉
5	移住・移民と多文化共生社会その1	移住・移民、多文化共生、在日コリアン、ユンヌンチュ	永吉
6	移住・移民と多文化共生社会その2	移住・移民、多文化共生、定住外国人一患者・医療従事者として一	永吉
7	儀礼・祭りと文化	儀礼・信仰・宗教、儀礼の過程、祭りと祭礼	永吉
8	まとめとレポート提出（終講時試験として）	まとめ／レポート提出（終講時試験として）	永吉

評価	レポート100%
テキスト	特に用いないが、下記参考図書（医学書院・系統看護学講座）の該当部分はダウンロードして適宜参照。
参考図書	医学書院系統看護学講座『文化人類学』『災害看護学・国際看護学』
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
基礎	暮らしの科学	講義	1 (15)	1年 前期	豊増 美喜

授 業 概 要

人間生活の基盤としての家庭生活、よりよい生活環境のあり方を科学的に捉え、看護につなげられる能力を身につける。

到 達 目 標

人は生きていく上で基盤となる家庭生活・衣生活・住生活に関する基礎的・基本的な知識を習得する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	○ 1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力を身につけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身につけることができる	7. 自ら“たんきゅう”する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	家庭生活と家庭経済	家庭生活の意義 家庭経営・管理	
2	食生活①	食生活と健康 食品の選択、管理	
3	食生活②	生活と食事、食事形態 身体機能と栄養	
4	衣生活①	衣服の役割と機能	
5	衣生活②	衣服の素材と表示 洗濯と管理	
6	住生活①	住居の役割と機能 生活空間	
7	住生活②	室内環境 住居の安全と管理	
8	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
基礎	国際関係論	講義	1 (15)	1年 後期	山根 健至

授 業 概 要

グローバル化が急速に進行している現在、世界各地で発生している問題は1国のみの問題ではなく、複数の国々や組織などの関係の上で成り立っている。現在では、他国や他地域で起きた様々な問題は、自分の身近なところに直結し生活に影響している。こうした状況を踏まえて、本科目では、具体的な国際問題を検討することを通して世界で起きている問題や日本の果たす役割について学修する。

到 達 目 標

国際問題の解決の取り組みにおける日本の役割について説明できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む。

事後学習：当日のテーマに沿って授業の振り返りを行う。

対応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内容	担当教員
1	国際関係論概要	授業ガイダンス 国際関係論とは、国際社会の成立、国際社会を形成するファクター	
2	国際協力とODA 国際機関とその役割	ODAの仕組みと日本の国際協力、国際連盟	
3	世界が抱える紛争問題	紛争多発地の状況・テロ（事件）の事例を通して	
4	世界が抱える貧困と格差	各国が抱える貧困と格差、日本の抱える貧困	
5	世界が抱える環境問題	エネルギー、温暖化、生態系、水資源	
6	国際的な人の移動	国際労働力移動、移民、難民、日本の外国人労働者	
7	平和構築と日本の役割	紛争と平和構築、PKOの仕組みと活動状況、日本の取り組み	
8	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
基礎	医療英会話	講義	1 (30)	1年 後期	高木 仁美

授業概要

医療現場でのやり取り、医療用語を学び、海外からの患者や仕事仲間とのコミュニケーション力をつけることを目指します。

到達目標

医療・看護に関する英語場面で日常的に使用される基礎的英会話を習得する。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応 D P	○	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
		5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内容	担当教員
1	基本的医学英語・患者とのコミュニケーション	Unit 1 受付 病院スタッフ 診療科と専門医	
2	基本的医学英語・患者とのコミュニケーション	Unit 2 外来診察 医療従事者 医療用品と器具	
3	気品の医学用語・患者とのコミュニケーション	Unit 3 問診 自己紹介 身体用語 外部器官など	
4	医学英語・患者とのコミュニケーション	Unit 4 検査 身体用語 内部器官など	
5	気品の医学英語・患者とのコミュニケーション	Unit 5 入院 病名 症状など	
6	患者とのコミュニケーション	Unit 6 手術	
7	患者とのコミュニケーション	Unit 7 病室	
8	患者とのコミュニケーション	Unit 8 要望	
9	患者とのコミュニケーション	Unit 9 食事	
10	患者とのコミュニケーション	Unit 10 入浴	
11	患者とのコミュニケーション	Unit 11 リハビリテーション	
12	患者とのコミュニケーション	Unit 12 退院	
13	患者とのコミュニケーション	Unit 13 薬局	
14	患者とのコミュニケーション	Unit 14 支払い	
15	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	English for Cure and Hospitality II キュアとホスピタリティーの英語II (鷹書房弓プレス)
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
基礎	運動科学	講義・演習	1 (15)	1年 前期	秋山 嘉和

授 業 概 要

「人の動き」及び「運動の構造」の成り立ちを理解する。筋や骨格の構造、力を出すメカニズムなどの身体の構造や機能に関する知識、物体としての身体が動く現象を知るための力学的知識、運動に関する知識を総合的に学習する。日常生活の動作がどのような機能により達成されるか動きの仕組みについての基礎的知識を身につける。

到 達 目 標

日常生活における身体運動を分析的に見る力を習得する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることが出来る。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身につけることができる	○ 7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	運動の動きと構造①	筋の種類と構造 筋収縮による力の発生 筋の動きから関節運動 関節の種類	
2	運動の動きと構造②	運動の形態 種類 原理	
3	運動と力学①	力学の基礎 運動の3原則（慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則）	
4	運動と力学②	回転運動 慣性モーメント 関節トルク てこの原理	
5	日常生活動作の運動学①	歩行動作 起居動作	
6	日常生活動作の運動学②	移動動作 移乗動作	
7	日常生活動作の運動学③	食事動作 整容動作 排泄動作 入浴動作	
8	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

# 專門基礎分野

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門基礎	人体の発生と構造・血液の成分と機能	講義	1 (30)	1年 前期	村田 潤

授 業 概 要

看護実践をするにあたり、その基礎となる正常な人体の構造と機能を正しく理解させることが、本学習の目的である。構造と機能は常に密接な関連があることから、まず人体の基本単位である細胞について理解し、続いて人体を構成する4つの組織の構造と機能を学習する。さらに、人体の発生の意義とそのメカニズムを学ぶことによって、生命の尊さを考える。また、血液の成分と働きを知ることによって、生命をより理解し健康について考える。

到 達 目 標

人体における細胞、組織を構造・機能の両面から学ぶ。また、血液の成分と働きについて理解する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野をもち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	人体の構造と機能を学ぶために必要なこと	人体の構造と機能について何を学ぶか。解剖学と生理学の歴史と現在	
2	人体の素材としての細胞・組織①	細胞の構造 細胞を構成する物質とエネルギーの生成	
3	人体の素材としての細胞・組織②	細胞膜の構造と機能 細胞の増殖と染色体	
4	人体の素材としての細胞・組織③	受精と胎児の発生 分化した細胞が作る組織	
5	構造と機能からみた人体	構造からみた人体 機能からみた人体	
6	体液とホメオスタシス①	体液 体液の調節（水の出納・脱水・酸塩基平衡）	
7	体液とホメオスタシス②	内部環境とホメオスタシス	
8	血液の成分と働き①	血液の組成と機能 赤血球 赤血球の数・ヘモグロビン・ヘマトクリット ヘモグロビンの構造と機能	
9	血液の成分と働き②	赤血球の新生 赤血球の破壊 貧血と赤血球増加症	
10	血液の成分と働き③	白血球 顆粒球 リンパ球 単球	
11	血液の成分と働き④	血漿タンパクと赤血球沈降速度 血漿タンパク質 赤血球沈降速度	
12	血液の成分と働き⑤	血小板 血液凝固とその阻止	
13	血液の成分と働き⑥	出血時間・凝固時間 繊維素溶解	
14	血液の成分と働き⑦	血液型・まとめ	
15	終講時試験	筆記試験／まとめ	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門基礎	呼吸・循環の構造と機能	講義	1 (30)	1年 前期	村田 潤

授 業 概 要

健康と疾病をの仕組みを考えるにあたり、その重要な要素である呼吸と循環のメカニズムを学ぶ

到 達 目 標

呼吸と循環のメカニズムとはたらきについて理解する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることが出来る。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	呼吸器の構造①	呼吸器の構成 上気道（鼻、咽頭、喉頭 発声と構音）	
2	呼吸器の構造②	下気道と肺（気管 気管支 肺）胸膜と縦隔	
3	呼吸①	内呼吸と外呼吸 呼吸器と呼吸運動（気道の機能、肺胞の機能 呼吸のメカニズム 呼吸筋）	
4	呼吸②	呼吸数 1回換気量 死腔 肺胞換気量 予備吸気量 予備子機量 肺活量 残気量 1秒量と1秒率	
5	呼吸③	ガス交換とガスの運搬 肺におけるガス交換 吸気呼気のガス組成と血液ガス 酸素・二酸化炭素の運搬	
6	呼吸④	肺の循環と血流 呼吸の神経性調節 化学受容器 呼吸器系の病態生理	
7	心臓の構造①	心臓の構造 心臓の位置と外形 心臓の部屋と弁心臓壁	
8	心臓の構造②	心臓の血管と神経 冠状血管系 冠状循環 心臓に分布する神経	
9	心臓の拍出機能①	心臓の興奮とその伝播 心臓の自律性と歩調とり 興奮の伝播	
10	心臓の拍出機能②	心電図 心臓の収縮	
11	末梢循環系の構造と肺循環	血管の構造 肺循環の血管	
12	全身の動脈	上行大動脈 大動脈弓 胸大動脈 腹大動脈 総腸骨動脈とその枝	
13	全身の静脈とリンパとリンパ管	上・下大静脈 頭部の静脈 上・下肢の静脈 骨盤と腹部の静脈 門脈系 リンパ管の構造とリンパの循環	
14	血液の循環と調節	血圧・血液の循環 血圧・血液量の調節 循環器系の病態生理	
15	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門基礎	消化・内分泌・腎泌尿・生殖の構造と機能	講義	1 (30)	1年 前期	北嶋修司

授 業 概 要

正常な消化・内分泌・腎泌尿・生殖器の構造と機能を学ぶ

到 達 目 標

消化・内分泌・腎泌尿・生殖のメカニズムとはたらきについて理解する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	○	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	○	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
		5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる		6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる		7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	栄養の消化と吸収の仕組み①	口・咽頭・食道の構造と機能 胃の構造とはたらき	
2	栄養の消化と吸収の仕組み②	小腸の構造とはたらき 大腸の構造とはたらき 5) 腹膜と腸間膜	
3	栄養の消化と吸収の仕組み③	膵臓・肝臓・胆のうの構造と機能	
4	内分泌系における調節 ①	分泌物の伝わり方とホルモンの特徴 視床下部一下垂体系	
5	内分泌系における調節 ②	甲状腺と副甲状腺 膵島の構造と機能	
6	内分泌系における調節 ③	副腎の構造と機能 性腺の構造と機能	
7	内分泌系における調節 ④	ホルモン分泌の調節 ホルモンによる調節の実際	
8	体液の調整と尿の生成 ①	体液の調整と尿の生成 (腎臓の構造と機能 糸球体の構造と機能)	
9	体液の調整と尿の生成 ②	尿細管の構造と機能 傍糸球体装置	
10	体液の調整と尿の生成 ③	クリアランスと糸球体ろ過量 腎臓から分泌される生理活性物質	
11	排泄路	排尿路の構造 尿の貯蔵と排尿	
12	男性生殖器	精巣と精路と付属生殖腺 男性の生殖機能	
13	女性生殖器	乳腺の構造 卵巣・卵管・子宮・膣の構造 卵巣周期 月経周期	
14	胎児と胎盤	胎盤と臍帯 生殖器の分化と発達 胎児の血液循環	
15	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門基礎	脳神経・骨格・筋・感覚の構造と機能	講義	1 (15)	1年 後期	坂本飛鳥

授 業 概 要

疾病の発生や病理的变化を理解するためには正常な構造と機能を理解しておく必要がある。本科目では、人体の構造と機能のうち、骨格と筋肉、神経系眼や耳などの構造と機能について学ぶ。

到 達 目 標

脳神経・骨格・筋・感覚のメカニズムと働きについて理解する

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	脊髄と脳	神経細胞と支持細胞 ニューロン・シナプスでの興奮の伝達 神経系の構造 脊髄の構造と機能 脳の構造と機能 脊髄神経の構造と機能 脳神経の構造と機能	
2	脳の高次機能	脳波と睡眠 記憶 本能行動と行動 中枢神経系の障害 自律神経による内臓機能の調節	
3	運動機能と下行伝導路 感覚機能と上行伝導路	運動ニューロン・下行伝導路 体性感覚の受容器の種類 皮膚感覚の感覚受容器の分布 上行伝導路	
4	眼と耳の構造と機能と味覚と嗅覚 疼痛	眼球の構造と眼球付属物 視覚 遠近調節・明暗順応 眼球運動の調節・眼球に関する反射 耳の構造 (聴覚・平衡覚) 味覚と嗅覚 疼痛	
5	からだの指示と運動の仕組み①	骨格とはどのようなものか 骨の連結 骨格筋	
6	からだの指示と運動の仕組み②	体幹の骨格と筋 脊柱・胸郭 背部の筋・胸部の筋・腹部の筋 上肢の骨格と筋	
7	からだの指示と運動の仕組み③	下肢の骨格と筋 下肢帯・自由下肢の骨格 下肢帯・自由下肢・大腿・下腿・足の筋群、頭頸部の骨格と筋 内臓頭蓋 頭部・頸部の筋 咀嚼筋・表情筋・頸部の筋 筋の収縮	
8	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門基礎	生化学	講義	1 (30)	1年 前期	北垣浩志

授 業 概 要

医療において化学的な知識は不可欠である。その土台に立って生化学という学問は成り立っている。遺伝子治療や代謝制御、抗生物質など、この分野は日進月歩し現代医療にどんどん取り入れられている。生化学は、将来の医療活動の一つの柱となるであろう。生化学を総括的に理解し、抵抗なく勉強していく事は看護師にとって重要である

到 達 目 標

生体を構成する化合物の変化を通して、生命現象を化学的に理解する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	○	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	2. 人間をあらゆる側面から統合的に捉え、生活を営む存在として幅広く捉えることができる	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	○	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
		5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる		

回数	単元	内 容	担当教員
1	生化学を学ぶための基礎知識	化学の基礎知識 細胞の構造と機能	
2	糖質	糖質の種類 単糖の構造と性質 二糖の構造と性質 多糖の構造と性質	
3	脂質	脂質の種類と役割 脂質各論 脂肪酸 中性脂肪 リン脂質 コレステロール	
4	リポタンパク質	リポタンパク質の生成と役割	
5	タンパク質	タンパク質とは アミノ酸 タンパク質の構造と分類	
6	核酸	塩基 ヌクレオシドとヌクレオチド DNAとRNAの構造	
7	代謝のあらまし	代謝とは 消化・吸収された栄養素の体内での代謝	
8	酵素	酵素に関する基礎知識 酵素反応 酵素反応の阻害・酵素の分類	
9	ビタミンと補酵素	ビタミンとは ビタミンの種類と生理作用	
10	糖質代謝	グルコースの分解 糖新生 グルコーゲンの代謝	
11	タンパク質代謝	タンパク質の消化と吸収	
12	脂質代謝	脂質の消化と吸収 脂肪酸の分解 ケトン体の産生と利用 脂肪酸・トリグリセリド・コレステロールの生合成	
13	代謝の異常	骨粗鬆症の成り立ち 糖尿病の成り立ち 高尿酸血症・痛風の成り立ち 核酸代謝	
14	遺伝情報とは	複製 転写 翻訳 DNAの損傷と修復	
15	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	生化学・微生物学 三恵社
参考図書	系統看護学講座 基礎分野 生化学 医学書院
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門基礎	病理学	講義	1 (30)	1年 後期	中野龍治

授 業 概 要

人体の正常状態と対比して病的な状態をことを学ぶ。人体の病気にはどのようなものがあるのか、その原因や生じた変化を主に形態的な面から学びます。

到 達 目 標

病理・病態および症候の基本的生理を理解する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力を身につけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野をもち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	病理学で学ぶこと	看護と病理学 病気の原因 疾病の分類	
2	先天異常と遺伝子異常①	先天異常とは 遺伝子異常 遺伝性疾患	
3	先天異常と遺伝子異常②	染色体異常による疾患 胎児の障害 先天異常・遺伝性疾患の診断	
4	循環障害①	局所性の循環障害 充血 うっ血 虚血	
5	循環障害②	虚血 血栓症・塞栓症 梗塞	
6	循環障害③	全身性の循環障害 ショック	
7	循環障害④	リンパの循環障害 浮腫 滲出液と濾出液	
8	炎症と免疫、膠原病①	炎症の経過 創傷治療 炎症の治療	
9	炎症と免疫、膠原病②	炎症の各型 免疫 アレルギーと自己免疫疾患、膠原病 移植と免疫	
10	腫瘍①	腫瘍とは何か 腫瘍の形態と分化度	
11	腫瘍②	腫瘍の悪性度 腫瘍の分類	
12	腫瘍③	腫瘍の発生病理（環境因子・内因）	
13	悪性腫瘍の転移と進行度	腫瘍の広がり リンパ性転移 血行性転移 播種 がんの進行度 腫瘍の診断と治療	
14	老化と死	細胞の老化と個体の老化 加齢に伴う諸臓器の変化 個体の死	
15	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	よくわかる専門基礎講座 生化学 金原出版株式会社
参考図書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 〔1〕病理学 〔2〕病態生理学
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門基礎	健康障害と治療Ⅰ (呼吸器・循環器・血液造血器)	講義	1 (30)	1年 後期	池上智美/福永充/堺正仁

授 業 概 要

科目名「人体の構造と機能・血液の成分と機能」や「呼吸・循環の構造と機能」で学んだ、呼吸器・循環器・血液造血器の正常な働きを振り返り、それらの異常の状態を学ぶ。また、疾患の状態を判断するための検査やそれらを回復させるための治療の基本について学ぶ。

到 達 目 標

呼吸器・循環器・血液造血器疾患の理解ができる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	○ 4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	呼吸器疾患①	呼吸器の構造と機能振り返り 呼吸器感染症の病態と検査・治療 (風邪と気管支炎 インフルエンザ・肺炎・結核・非結核性抗酸菌症)	
2	呼吸器疾患②	アレルギー性呼吸器疾患の病態と検査・治療 (気管支喘息など)	
3	呼吸器疾患③	慢性閉塞性肺疾患の病態と検査・治療	
4	呼吸器疾患④	肺腫瘍 (良性腫瘍と悪性腫瘍) の病態と検査・治療	
5	呼吸器疾患⑤	呼吸不全の種類や分類、病態生理・検査・治療	
6	呼吸器疾患⑥	その他の呼吸器疾患の病態生理と検査・治療	
7	循環器疾患①	循環器の構造と機能振り返り 循環器疾患の主な検査や治療 (心電図や心臓カテーテル検査など)	
8	循環器疾患②	虚血性心疾患 (心筋梗塞、狭心症) の病態生理と検査・治療	
9	循環器疾患④	心不全・高血圧症の病態生理と検査・治療	
10	循環器疾患⑤	不整脈・弁膜症・感染性心内膜炎の病態生理と検査・治療	
11	循環器疾患⑥	動脈系疾患・静脈系疾患・高脂血症やその他の病態生理と検査・治療	
12	血液・造血器疾患①	血液造血器のおさらい、主な検査や治療 赤血球系の疾患の病態生理と検査・治療	
13	血液・造血器疾患②	白血球系の疾患 (白血病やリンパ系疾患) の病態生理と治療・検査	
14	血液・造血器疾患③	出血性疾患の病態生理と治療・検査	
15	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座専門分野 成人看護学「2」呼吸器「3」循環器「4」血液・造血器
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門基礎	微生物学	講義	1 (30)	1年 後期	菖蒲池健夫

授 業 概 要

看護者は、来院者から感染することもあれば、来院者に感染させることもある。  
 感染の原因になる生物（細菌・真菌・原虫・ウイルス）の性質を理解し、ヒトと微生物とが関わることでおこる種々の反応を学ぶ。感染がヒトと微生物との相互作用の結果によるものであることを理解することにより、医療現場における感染を防ぎ、来院者を適切に看護する能力を養う。

到 達 目 標

微生物の種類と生体に及ぼす影響や感染に対する生体防御機構について理解できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	○ 4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	微生物感染の機構	感染とは 生体と病原体	
2	感染の成立から発症・治癒	感染源と感染経路 侵入門戸と付着 付着から発症まで 発症後の経過	
3	細菌の性質	細菌の形態と特徴 培養環境と栄養 細菌の遺伝 細菌の分類	
4	真菌の性質	真菌の形態と特徴 形態 真菌の増殖 真菌の分類と命名法 栄養と培養 真菌の性質	
5	原虫の性質	原虫の特徴と基本構造 病原原虫の種類 原虫の感染	
6	ウイルスの性質	ウイルスの特徴 ウイルスの構造と各部分の機能 ウイルスの増殖 ウイルスの分類	
7	細菌感染の機構	定着因子 増殖因子	
8	真菌感染の機構	真菌の感染経路 真菌の病原因子 真菌の病原性	
9	ウイルス感染の機構	ウイルスの特徴 ウイルスの感染と細胞の宿命 ウイルス感染の経路	
10	自然免疫のしくみ①	上皮によるバリアー 生理学的防御	
11	自然免疫のしくみ②	常在細菌叢による防御 粘液・分泌液内の抗菌タンパク マクロファージによる異物監視機構と病原体の認識	
12	獲得免疫のしくみ①	免疫にかかわる組織・臓器および細胞 サイトカイン	
13	獲得免疫のしくみ②	抗原特異的免疫機構 免疫応答と免疫反応	
14	獲得免疫のしくみ③	ワクチン接種と受動免疫療法	
15	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 微生物学
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門基礎	栄養学	講義	1 (30)	1年 後期	松尾麻衣

授 業 概 要

人間が生きていく上で欠かすことのできない栄養の基礎的知識および臨床栄養の基礎的知識を身に付ける。この科目は、生化学で学んだ、各栄養素の働きを基に実際の食事を摂る際にどのような工夫や注意点、実際のアセスメントの方法を学ぶ。

到 達 目 標

人間が生きていく上で欠かすことのできない栄養の基礎的知識および臨床栄養の基礎について理解できる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることが出来る。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	○ 4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	人間栄養学と看護	栄養と栄養素 看護と栄養 栄養状態の評価の目的 栄養状態の評価・判定法	
2	栄養素の種類とはたらき	炭水化物 脂質 タンパク質 ビタミン ミネラル	
3	エネルギー代謝	食品のエネルギー 三大栄養素のエネルギー エネルギーの換算係数 体内のエネルギー エネルギー代謝の測定 エネルギー消費	
4	栄養素の消化・吸収	栄養素の消化・吸収 栄養素の体内運搬	
5	栄養素の体内代謝	肝臓の働き 血糖 血漿脂質 代謝産物の排泄	
6	ライフステージにおける栄養	乳児期・幼児期の栄養アセスメント	
7	ライフステージにおける栄養	成人期の栄養アセスメント	
8	ライフステージにおける栄養	妊娠期・授乳期の栄養アセスメント	
9	ライフステージにおける栄養	高齢期の栄養アセスメント	
10	病院食	病院食の意義と種類	
11	病院食	循環器疾患患者の食事療法 消化器疾患患者の食事療法	
12	病院食	栄養・代謝疾患患者の食事療法 腎疾患患者の食事療法 食物アレルギー疾患患者の食事療法	
13	病院食	小児疾患患者の食事療法 術前・術後患者の食事療法 在宅療養患者の食事療法	
14	栄養補給法	経腸栄養 静脈栄養	
15	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔3〕 栄養学 別巻 栄養食事療法「医学書院」
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門基礎	薬理学Ⅰ（総論）	講義	1 (15)	1年 後期	西村直寛

授業概要

薬物の作用機序について、生化学や人体の構と機能で学んだ既習内容を基に特徴を理解し、薬物療法を受ける人々への看護の基礎を学ぶ。

到達目標

薬物の作用機序および薬物療法に対する基礎が理解できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内容	担当教員
1	薬物の種類や作用①	薬物による病気の治療 薬が作用するしくみ（薬力学）	
2	薬物の種類や作用①	薬の体内挙動 薬物の投与経路 経口 舌下 直腸内 皮膚 注射 その他	
3	薬物の種類や作用①	薬物の吸収 分布 代謝と排泄 治療において重要となる薬物動態	
4	薬物の種類や作用①	薬物相互作用（薬物動態的相互作用 薬力学的相互作用）	
5	薬物の種類や作用①	薬物の個人差に影響する因子 薬物使用の有益性と危険性	
6	薬と法律	医薬品に関する法律	
7	看護業務に必要な薬の知識	薬に関する単位 処方箋 添付文書	
8	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔3〕 薬理学
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門基礎	総合医療論	講義	1 (15)	1年 前期	樋高克彦

授 業 概 要

今日の医療の新しい展開について理解し、医療や看護の原点について改めて考える。また、保健・医療・福祉の現状と抱えている問題点やその背景について理解することを目的としている。

到 達 目 標

保健・医療・福祉の現状と抱えている問題点と、その背景を理解することができる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	医学と医療①	温故知新 医学の歴史	
2	医学と医療②	臨床疫学とEEM	
3	医療と社会①	医の倫理 医療安全 医薬品	
4	医療と社会②	最先端医療 医療情報	
5	医療経済学と医療政策①	公的医療保険がなぜ必要か 医療の質評価と情報公開	
6	医療経済学と医療政策②	医療サービスの規制 医療職不足	
7	転換が迫られる医療政策	国民医療費 これまでの医療費抑制策 急性期医療の集約化 医療サービスの費用効果分析	
8	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 別巻 総合医療論 「医学書院」
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門基礎	人々の暮らしと健康支援	講義	1 (15)	1年 前期	山口真喜子

授 業 概 要

日本全国の地域について調べ、気候や地域の文化などが人々の生活に影響を与えていることや、看護学での“健康”とは何か、“支援”とは何かについて学ぶ。支援については国や地方自治体、会社（企業）などの様々な健康に関する支援やサービスについて調べ学習する。

到 達 目 標

日本の諸地域の自然環境、歴史的背景、環境問題、人口分布、文化を調べ、生活にどのような影響を与えているか理解することができる。また、健康とは何か支援や社会福制度、サービスとは何か理解することができる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	日本諸地域の特徴	九州地方 中国地方 近畿地方 中部地方 関東地方 東北地方 北海道地方 の自然環境や災害 人口分布 都市や工業 産業の特徴 歴史的背景や文化についてグループワーク	
2	日本諸地域の特徴	日本諸地域の特徴について発表会 文化や歴史、気候が健康に与える影響について考える	
3	健康とは何か①	健康とは何かグループワークで話し合い、発表	
4	健康とは何か②	健康とは何かグループワークで話し合い、発表	
5	健康を保つための法律や機関①	健康を保つための国レベルの関係機関や県レベル、市町村レベルの関係機関について調べ学習 グループワーク	
6	健康を保つための法律や機関②	健康を保つための国レベルの関係機関や県レベル、市町村レベルの関係機関について調べ学習 グループワーク	
7	健康を保つための法律や機関③	発表会 まとめ	
8	終講時試験	レポート	

評価	レポート100%
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤
参考図書	
留意事項	

# 専門分野

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門	看護学概論	講義	1 (30)	1年 前期	太田 裕美子

授 業 概 要

“看護の目的”や“看護とは何か”を理解し、看護の対象を的確に捉え、看護の機能・役割を理解するための基礎的学習内容とした。また、看護専門職としての倫理についての学習も含めている。「人間関係論」や「心理学」で学んだ知識を活かし、看護の対象や看護の役割を理解し、専門科目に繋がる科目である。

到 達 目 標

看護の概念及び看護の機能と役割について理解できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	○ 1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	○ 3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	○ 4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら“たんきゅう”する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	看護とは①	看護の本質	
2	看護とは②	看護の役割と機能	
3	看護とは③	看護の継続性と情報共有	
4	看護とは④	看護理論 ナイチンゲール	
5	看護とは⑤	看護理論 ヘンダーソン	
6	看護の対象の理解①	生活者としての人間：「生活」の4つ側面	
7	看護の対象の理解②	看護の対象としての家族・集団・地域	
8	国民の健康・生活の全体像の把握①	健康のとらえ方	
9	国民の健康・生活の全体像の把握②	国民の健康状態 国民のライフサイクル	
10	看護職の資格と養成にかかる制度①	保健師助産師看護師法	
11	看護職の資格と養成にかかる制度②	看護基礎教育と養成施設 看護職の養成施設	
12	看護における倫理①	医療専門職の倫理規定	
13	看護における倫理②	患者の権利とインフォームドコンセント	
14	看護における倫理③	看護実践における倫理問題への取り組み	
15	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 看護学概論
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門	共通看護技術1	講義 演習	1 (30)	1年 前期	樺澤 秀美

授業概要

看護の各領域に共通する基礎的な看護技術の学習を通して、対象のニーズに応じた援助に必要な知識・技術・態度を学ぶ。「運動科学」や「人間関係論」で学んだ既習の知識を活用し看護における安全・安楽な技術や看護・医療とコミュニケーションを学ぶ。本科目の学習内容は「共通看護技術2」「日常生活援助技術1」「日常生活援助技術2」へ繋がる。

到達目標

看護技術の位置づけを理解し、看護に共通する技術を習得する。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力を身につけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら“たんきゅう”する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内容	担当教員
1	看護技術とは	看護技術とは 看護技術の特徴 看護技術を適切に実践するための要素	
2	看護技術における倫理	患者の権利擁護 倫理的判断	
3	看護における安全・安楽①	衛生的な手洗い 個人防護用具	
4	看護における安全・安楽②	看護における安全・安楽の意義	
5	安楽な姿勢と動作 体位の保持	基本的活動の基礎知識 姿勢を保持する機能	
6	安全・安楽で効果的な動きのための技術	基本体位 体位変換 安楽な体位 ポディメカニクス	
7	コミュニケーションの技術①	コミュニケーションとは 看護・医療とコミュニケーション 構成要素と成立要素	
8	コミュニケーションの技術②	関係構築のためのコミュニケーション 接近的行動と非接近的行動	
9	コミュニケーションの技術③	効果的なコミュニケーションの実際 傾聴の技術	
10	コミュニケーションの技術④	効果的なコミュニケーションの実際 情報収集の技術 説明の技術	
11	コミュニケーションの技術⑤	効果的なコミュニケーションの実際 アサーティブネス	
12	コミュニケーションの技術⑥	看護専門職として備えるべきコミュニケーション能力向上のために：プロセスレコード	
13	コミュニケーションの技術⑦	看護専門職として備えるべきコミュニケーション能力向上のために：プロセスレコード	
14	コミュニケーションの技術⑧	コミュニケーション障害への対応	
15	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門	共通看護技術2	講義 演習	1 (30)	1年 後期	石丸 律子

授 業 概 要

看護の各領域に共通する基礎的な看護技術の学習を通して、対象のニーズに応じた援助に必要な知識・技術・態度を学ぶ。「看護学概論」で学んだ知識を活かし、「診療に伴う看護技術1」や「臨床看護総論」に繋がる科目である。

到 達 目 標

看護技術の位置づけを理解し、看護に共通する技術を習得する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	○ 4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら“探究”する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	感染防止の技術①	感染とその予防の基礎知識 感染予防における看護師の責務と役割	
2	感染防止の技術②	感染成立の条件 感染経路別予防策	
3	感染防止の技術③	スタンダードプリコーション	
4	感染防止の技術④	無菌操作 滅菌と消毒の方法	
5	感染防止の技術⑤	ガウンテクニック 感染性廃棄物の取扱い	
6	安全確保の技術	安全確保の基礎知識 (誤薬防止・チューブ類の事故防止・転棟、転落防止・患者誤認防止)	
7	創傷管理技術①	創傷管理の基礎知識 創傷処置	
8	創傷管理技術②	包帯法 褥瘡予防ケア	
9	学習支援の実際①	看護における学習支援 看護師の役割としての学習支援	
10	学習支援の実際②	健康に生きることを支える学習支援	
11	学習支援の実際③	対象のニーズの把握、学習支援の目標、場の設定	
12	学習支援の実際④	事例をもとに、学習支援の方法を考える。(グループワーク)	
13	学習支援の実際⑤	事例をもとに、学習支援の方法を考える。(グループワーク)	
14	学習支援の実際⑥	発表	
15	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	医学書院 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門	日常生活援助技術1	講義 演習	1 (30)	1年 前期	中原 輝子

授 業 概 要

既習の「共通看護技術1」の知識を活かし、人間の生活にとっての「環境」について理解し、対象者の「環境」の援助に関する基本的な知識・技術・態度を習得する。また、生命維持にとっての「活動と休息」「食」について理解し日常生活援助技術を中心とする根拠に基づいた援助技術の必要性を理解し、演習を通して基本的看護技術を習得する。この授業で学んだ「日常生活援助技術2」に活かす。

到 達 目 標

日常生活活動の場を整える看護技術を習得する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることが出来る。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら“探究”する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	快適な環境のための看護技術①	プライバシー保護と環境整備 室温と湿度の保持 騒音の原因と排除	
2	快適な環境のための看護技術②	ベッドメイキング	
3	快適な環境のための看護技術③	臥床患者のリネン交換	
4	活動・休息の援助①	活動・運動の援助 睡眠と休息	
5	活動・休息の援助②	水平移動・体位変換GW	
6	活動・休息の援助③	水平移動・体位変換GW	
7	活動・休息の援助④	車椅子、ストレッチャー移送GW	
8	活動・休息の援助⑤	同一体位の体験 グループ発表	
9	活動・休息の援助⑥	歩行・移動介助	
10	活動・休息の援助⑦	廃用症候群の予防 活動・休息の援助のまとめ	
11	食生活への援助①	食事と栄養摂取	
12	食生活への援助②	食生活基本的援助 誤嚥・窒息防止	
13	食生活への援助③	経鼻栄養法による流動食注入	
14	食生活への援助④	演習の振り返り	
15	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	実技試験30% 筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門	日常生活援助技術2	講義	1 (30)	1年 後期	中原 輝子

授 業 概 要

既習の「共通看護技術1」「日常生活援助技術2」の知識を活かし、人間の生活にとっての「衣生活」「清潔」「排泄」の意義、根拠について理解し、日常生活援助に関する基本的な知識・技術・態度を習得する。演習を通して基本的看護技術を習得する。この授業で学んだ学習内容は専門領域の基本となる。

到 達 目 標

「衣生活」「清潔」「排泄」の意義を理解し、根拠をもとに「衣生活」「清潔」「排泄」の援助に関する基本的な知識・技術・態度を習得する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	2. 人間をあらゆる側面から統合的に捉え、生活を営む存在として幅広く捉えることができる	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら“たんきゅう”する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	衣生活の援助①	衣生活の意義 病衣の条件 身だしなみ	
2	衣生活の援助②	寝衣交換	
3	清潔の援助①	入浴 シャワー浴 整容	
4	清潔の援助②	全身清拭	
5	清潔の援助③	全身清拭	
6	清潔の援助④	手浴 足浴	
7	清潔の援助⑤	口腔ケア	
8	清潔の援助⑥	洗髪	
9	清潔の援助⑦	洗髪	
10	排泄の援助①	排泄の意義 排泄のメカニズム 陰部洗浄	
11	排泄の援助②	陰部洗浄	
12	排泄の援助③	浣腸 摘便	
13	排泄の援助④	導尿 留置カテーテルの管理	
14	援助の振り返り	援助の振り返り	
15	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	実技試験30% 筆記試験70%
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門	ヘルスアセスメント	講義 演習	1 (30)	1年 後期	中原輝子

授 業 概 要

看護の対象となる人の健康状態の把握や看護援助の評価を行なうために必要なヘルスアセスメントについて学ぶ。専門基礎分野の「人体の発生と構造」「呼吸・循環の構造と機能」「消化・内分泌・腎泌尿器・生殖の構造と機能」「脳神経・骨格・筋・感覚の構造と機能」で学んだ既習知識をもとに情報の意味を理解し判断能力を養う。本科目で学んだ内容は、専門分野の基礎看護学を初めとする全領域に繋がる。

到達目標

観察技術の基本となるバイタルサインやフィジカルアセスメント技術を習得する。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	○ 4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力を身につけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら“探究”する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内容	担当教員
1	ヘルスアセスメントの意義と目的	ヘルスアセスメントの意義・目的・方法	
2	フィジカルアセスメントに必要な技術	問診・視診・触診・聴診・打診	
3	フィジカルアセスメント①	バイタルサイン測定（体温・呼吸・脈拍・意識）	
4	フィジカルアセスメント②	バイタルサイン測定（血圧）	
5	フィジカルアセスメント③	バイタルサイン測定（血圧）	
6	系統別フィジカルアセスメント①	呼吸器系フィジカルアセスメント 体位ドレナージ	
7	系統別フィジカルアセスメント②	循環器系フィジカルアセスメント	
8	系統別フィジカルアセスメント③	腹部フィジカルアセスメント	
9	系統別フィジカルアセスメント④	筋・骨格系フィジカルアセスメント ADL, ROM, MMT	
10	系統別フィジカルアセスメント⑤	神経系・感覚器・外皮系フィジカルアセスメント	
11	心理社会的状態のアセスメント	精神状態・社会的状態のアセスメント	
12	セルフケア能力のアセスメント	セルフケア能力のアセスメントの意義・目的・方法	
13	体温・循環調節の援助	温罨法・冷罨法	
14	呼吸の管理に必要な看護技術	吸引（口腔・鼻腔・気管）・酸素吸入・酸素ボンベ・酸素流量計の取り扱い	
15	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	実技試験30% 筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門	診療に伴う看護技術1	講義 演習	1 (30)	1年 後期	樺澤 秀美

授 業 概 要

診療の補助に伴う援助技術として薬物療法・診察および検査時の援助に必要な知識・技術・態度を身につける学習内容である。薬物の剤形と特徴を理解し、正しい与薬、薬剤の管理方法を学ぶ。経口投与、口腔内投与、吸入、点眼、点鼻、経皮的投与、直腸内投与の特徴を理解し、援助の実際を学ぶ。さらに注射の基礎知識を理解する。「薬理学Ⅰ」で学んだ知識を活かし、「臨床看護総論」や「臨地実習」に繋がる。

到 達 目 標

診療に伴う看護技術を習得する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P ○	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力を身につけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身につけることができる	7. 自ら“探究”する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	診察・検査・処置における技術	臨床検査の役割 臨床検査の流れと看護師の役割	
2	主な臨床検査①	一般検査と血液学的検査 【検査技師】	
3	主な臨床検査②	生体検査（心電図 肺活量検査 眼底検査 聴力検査 超音波検査）【検査技師】	
4	画像診断①	x線診断 CT 【放射線技師】	
5	画像診断②	MR I 放射線による障害と防護 【放射線技師】	
7	検査時の看護師の役割①	検査時の看護師の役割についてGW	
8	検査時の看護師の役割②	発表	
6	検体検査	血糖測定・尿検査・便検査・喀痰検査	
9	与薬の技術	薬物の基礎的知識（薬理学Ⅰの既習内容）振り返り 与薬時の看護師の役割	
10	経口与薬 口腔内与薬	援助法 援助の実際（演習）	
11	吸入と点眼・点鼻	援助法 援助の実際（演習）	
12	経皮的与薬と直腸内与薬	援助法 援助の実際（演習）	
13	注射法①	注射の基礎知識（概要 種類 実施上の責任）	
14	注射法②	注射の基礎知識（アンプル バイアルの使用）	
15	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ、臨床検査
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門	看護過程	講義 演習	1 (30)	1年 後期	古賀 恭子

授 業 概 要

「成人看護学概論」や「ヘルスアセスメント」知識を活かし、看護の対象を統合的・全人的に捉え、看護援助を意図的にかつ計画的に実践するために看護過程展開の方法を学ぶ。本授業で学んだ学習内容を「臨床看護総論」や専門領域の臨地実習で活用する。

到 達 目 標

看護過程の展開方法が理解できる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	○	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	○	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	○	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力を身につけることができる
	○	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	○	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	○	7. 自ら“探究”する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる		

回数	単元	内 容	担当教員
1	看護過程とは	看護過程の対象とその基本構造 問題解決型アプローチとしての看護過程	
2	看護過程とは	看護過程における情報	
3	看護過程の展開①	ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント（健康認識）	
4	看護過程の展開②	ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント（栄養・代謝・排泄）	
5	看護過程の展開③	ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント（活動・運動、睡眠）	
6	看護過程の展開④	ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント（認知・自己知覚）	
7	看護過程の展開⑤	ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント（役割・性）	
8	看護過程の展開⑥	ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント（コーピングストレス・価値）	
9	看護過程の展開⑦	看護問題の明確化（看護診断）	
10	看護過程の展開⑧	看護問題の明確化（看護診断）	
11	看護計画①	看護計画の立案	
12	看護計画②	看護計画の立案	
13	看護計画③	評価	
14	看護記録と報告	看護記録の機能と法的意義	
15	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門	臨床看護総論	講義	1 (15)	1年 後期	山口 真喜子

授 業 概 要

既習の「ヘルスアセスメント」や「呼吸・循環の構造と機能」の知識を活かし、健康障害を持つ対象の理解に努め、事例（誤嚥性肺炎・心不全）に基づいて対象の健康状態を評価して、対象に応じた複数の日常生活の調整方法や診療に伴う看護技術を活用するために必要となる基本的な判断力・技術を習得する。この授業で学んだ学習内容を専門領域の臨地実習「基礎看護学実習Ⅱ」に活かす。

到 達 目 標

事例に基づき、患者の健康状態を評価して患者に応じた日常生活の調整方法や診療に伴う看護技術を活用する基礎を習得する

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	○ 3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	○ 4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野をもち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら“探究”する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	主要症状のある患者の看護①	誤嚥性肺炎の症状の観察とアセスメント	
2	主要症状のある患者の看護②	看護診断・援助の実際 GW	
3	主要症状のある患者の看護③	誤嚥性肺炎の援助の実際 発表	
4	主要症状のある患者の看護④	心不全の症状の観察とアセスメント	
5	主要症状のある患者の看護⑤	看護診断・援助の実際 GW	
6	主要症状のある患者の看護⑥	心不全の援助の実際 発表	
7	まとめ	アセスメントと援助の振り返り	
8	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 臨床看護総論 成人看護学〔2〕呼吸器〔3〕循環器
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門	地域看護概論	講義 演習	1 (30)	1年 前期	樺澤 秀美 山口 真喜子

授 業 概 要

看護の対象である人間は、周囲の環境から影響を受け、環境との相互作用のなかで暮らしている。この“暮らし”は年齢や発達課題や家族構成などにより十人十色である。また、この暮らしに影響を及ぼす要因として、制度や地域特性がある。看護の土台である地域で暮らす人々の看護を学ぶために人々の暮らしの多様性や暮らしに影響を与える武雄市の地域特性を学ぶ内容とした。「地域実習Ⅰ」や「地域実習Ⅱ」、「地域看護活動の展開」に繋がる学習内容である。

到 達 目 標

暮らしの拠点となる武雄市の歴史や地域の特徴が理解できる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P O	○ 1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	○ 3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	○ 4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら“探究”する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	暮らすということ	子どもを生み育てる、働く、老いとともに生きる	
2	武雄市やその周辺地域の特徴・歴史や文化①	武雄市の歴史や文化 GW	
3	武雄市やその周辺地域の特徴・歴史や文化②	産業、家族構成 武雄市の歴史や文化 GW	
4	地域の生活環境①	小児にとっての武雄市	
5	地域の生活環境②	青年期にとっての武雄市	
6	地域の生活環境③	高齢者にとっての武雄市	
7	地域の生活環境④	自然災害と防災	
8	看護の場に応じた活動と専門分化①	医療施設における看護活動	
9	看護の場に応じた活動と専門分化②	保健福祉施設における看護活動	
10	地域の生活環境⑤	フィールドワーク	
11	地域の生活環境⑥	フィールドワーク	
12	地域の生活環境⑦	フィールドワーク	
13	地域の生活環境⑧	まとめ GW	
14	地域の生活環境⑨	発表	
15	終講時試験	まとめ/レポート作成	

評価	レポート100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門	家族看護論	講義 演習	1 (15)	1年 後期	小池 恭栄

授 業 概 要

「家族社会学」で学んだ知識を活かし、家族の健康問題について学び、家族看護実践に必要な家族看護の諸理論をもとに、家族支援方法について学ぶ。本授業で学んだ内容を「在宅看護概論」「在宅看護援助論」に活かす。

到 達 目 標

家族看護の対象を理解し、理論と介入方法を知ることができる

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	○ 4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら“探究”する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	家族看護とは①	家族看護の特徴と理念	
2	家族看護とは②	家族看護の実践の場	
3	家族看護の対象理解①	家族看護からみた家族の捉え方	
4	家族看護の対象理解②	家族の健康	
5	家族看護を支える理論と介入法①	家族を理解するための理論	
6	家族看護を支える理論と介入法②	家族に変化をもたらすための介入(事例をもとにグループワーク)	
7	家族看護を支える理論と介入法③	発表会・まとめ	
15	終講時試験	筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 家族看護学
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門	成人看護学概論	講義 演習	1 (30)	1年 後期	古賀 恭子

授 業 概 要

成長発達論で学んだ成人期の特徴などを踏まえ、成人期の特徴を理解し、“学習行動”“エンパワメントモデル”“セルフケア”など成人期にある対象の問題を理解するのに有用な概念を学ぶ。また、成人期の特徴を身体的、精神的、社会的などの側面から捉える必要性を理解し2年次に学習する成人各期の看護に活かす。

到 達 目 標

ライフサイクルにおける成人期の特徴を身体的・精神的・社会的などの側面から統合的にとらえる必要性を理解できる。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	○ 4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	○ 6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら“探究”する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	成人と生活①	対象者の理解 大人になること 大人であること 対象者の生活 働いて生活を営むこと 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 GW	
2	成人と生活②	対象者の理解 大人になること 大人であること 対象者の生活 働いて生活を営むこと 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 GW	
3	成人と生活③	上記内容について発表 まとめ	
4	成人への看護アプローチの基本①	生活と健康をまもりはぐくむシステム 生活のなかで健康行動のとらえ方 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 チームアプローチ ヘルスプロモーションと看護 GW	
5	成人への看護アプローチの基本②	生活と健康をまもりはぐくむシステム生活のなかで健康行動のとらえ方 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 チームアプローチ ヘルスプロモーションと看護 GW	
6	成人への看護アプローチの基本③	生活と健康をまもりはぐくむシステム生活のなかで健康行動のとらえ方 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 チームアプローチ ヘルスプロモーションと看護 GW	
7	成人への看護アプローチの基本④	上記内容について発表 まとめ	
8	健康をおびやかす要因と看護①	健康バランスに影響を及ぼす要因 生活行動がもたらす健康問題とその予防 GW	
9	健康をおびやかす要因と看護②	健康バランスに影響を及ぼす要因 生活行動がもたらす健康問題とその予防 GW	
10	健康をおびやかす要因と看護③	上記内容について発表 まとめ	
11	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	生命の危機状況 急性期にある人の特徴 急性期にある人の看護 救急医療を必要とする人々	
12	慢性病との共存を支える看護	慢性病患者の理解 慢性病との共存を支える看護の実践 エンパワメント セルフケアとセルフマネジメント 自己効力感	
13	障害がある人の生活とリハビリテーション	障害がある人とリハビリテーション 障害がある人とその生活を支援する看護	
14	人生の最期のときを支える看護	人生の最期のときにおける緩和ケア	
15	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 成人看護学総論
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門	老年看護学概論	講義 演習	1 (30)	1年 後期	坂本 清

### 授 業 概 要

老年期の人々が加齢により種々の機能が低下し心身ともに衰えていく過程にあるという側面と、人間として成熟し人生の円熟期を迎え尊重される存在という側面を併せ持つ高齢者を理解する。さらにライフサイクルにおける老年期の特徴を身体的・精神的・社会的側面から統合的に捉え、高齢者を取り巻く社会の動向と保健・医療・福祉制度について学び、老年看護における機能と役割を学ぶ。「老年看護学援助論」や「高齢者の健康障害と看護」に繋がる科目である。

### 到 達 目 標

ライフサイクルにおける老年期の特徴を身体的・精神的・社会的側面から統合的に捉えることができる。

### 事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：各単元の事前課題に取り組む

事後学習：学習内容の国家試験問題に取り組む。

対 応 D P	○	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることが出来る。	○	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	○	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	○	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	○	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野をもち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	○	7. 自ら“探究”する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる		

回数	単元	内 容	担当教員
1	老年期の特徴	ライフサイクルからみた老年期の特徴、人口学的指標から老年期の理解	
2	加齢に伴う社会文化的特徴①	グローバルな観点からの高齢者問題(1)高齢化への国際的動向(2)わが国の高齢問題	
3	加齢に伴う社会文化的特徴②	高齢化が社会生活に及ぼす影響 (1)高齢者の暮らし (2)高齢社会と医療	
4	加齢に伴う社会文化的特徴③	高齢化に伴う社会文化的影響、地域における高齢者の学習ニーズの変化	
5	超高齢社会における社会保障の動き	自立支援システムの実現に向けて	
6	老年看護の機能と役割	高齢者にとっての健康状態、健康段階と場に応じた看護の機能と役割	
7	老年看護の対象	老年看護の原理 (1) 老年看護とは (2) 老年看護の根本原理	
8	老年期にある人々の特徴①	老年期の発達と成熟 (1) 老年期における発達と成熟の意味 (2) 人格と尊厳	
9	老年期にある人々の特徴②	高齢者の生活理解 (1) 加齢に伴う生活の変化 (2) 高齢者の健康的な生活	
10	加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化の特徴①	加齢に伴う変化の特徴 (1) 恒常性と健康をまもる4つの力の変化 (2) 疾病をめぐる特徴	
11	加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化の特徴②	加齢に伴う身体的・精神的特徴(1) 内臓機能の変化 (2) 運動・体力の変化	
12	加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化の特徴	老年疑似体験 (演習)	
13	加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化の特徴③	体験後グループワーク 発表	
14	エンドオブライフケア	1. エンドオブライフケアの概念 2. 「生ききる」ことを支えるケア	
15	終講時試験	まとめ/筆記試験	

評価	筆記試験(確認小テスト含む)及び課題レポート
テキスト	系統別看護学講座 老年看護学
参考図書	国民衛生の動向
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門	小児看護学概論	講義	1 (15)	1年 後期	工藤 広大朗

授 業 概 要

小児の成長・発達段階と各期の特徴、及び家族の役割や小児を取り巻く社会の動向と保健医療福祉教育制度について学び、小児看護の機能と役割を理解する。

到 達 目 標

小児の特徴をふまえ、小児看護の理念と意義を理解する。

事 前 学 習・事 後 学 習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対 応 D P	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	○ 2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることが出来る。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	○ 4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	○ 6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら“探究”する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内 容	担当教員
1	小児看護の特徴と理念	小児看護の対象、小児看護の変遷、子どもの権利条約、児童憲章、児童福祉法	
2	小児の成長発達	成長・発達（一般的原則）（身体的機能、知的機能、情緒・社会性） （身体的機能、知的機能、情緒・社会性）	
3	小児各期の特徴と看護（新生児期、乳児期）	新生児期・乳児期にある子どもの成長・発達、養育、看護	
4	小児各期の特徴と看護（幼児期）	幼児期にある子どもの成長・発達、養育、看護	
5	小児各期の特徴と看護（学童期、思春期）	学童期・思春期にある子どもの成長・発達、養育、看護	
6	小児の家族の特徴、家族を取り巻く社会①	現代社会の家族構成、子どもを取り巻く社会	
7	小児の家族の特徴、家族を取り巻く社会②	児童虐待	
8	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論・小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院
参考図書	
留意事項	

分野	授業科目	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門	専門職連携の基礎	講義・演習	1 (15)	1年 後期	工藤 広大朗

授業概要

多職種連携の必要性を理解し、保健・医療・福祉における各専門職の役割と活動内容を学ぶ。

到達目標

保健・医療・福祉における各専門職の役割と活動内容を説明することができる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む

事後学習：プリント等復習を行う

対応 D P O	1. 人間への深い関心と豊かな感性を持つことができる	2. 生活を営む存在として、人間をあらゆる側面から統合的に捉えることができる。	3. 看護実践の場において人としての権利を尊重できる倫理観を持ち対処することができる	4. 対象の健康上・生活上の問題を根拠に基づいて考察し、安全かつ安楽に看護実践できる基礎的能力をみにつけることができる
	5. 保健・医療・福祉社会の中で人々が社会資源を活用できるよう、他職種と連携・調整する基本的能力を養うことができる	6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、多様な価値観を理解する能力を身に付けることができる	7. 自ら“探究”する姿勢を持ち、専門職業人として課題達成に取り組むことができる	

回数	単元	内容	担当教員
1	多職種連携の必要性①	多職種連携を推進する意義 多職種連携を推進するために自らの目指す職種においてできること	
2	多職種連携の必要性②	自らの目指す職種の専門性を追求するための学習課題	
3	専門職の理解①	保健医療福祉における各専門職の関与する領域 各専門職の組織	
4	専門職の理解②	各専門職の役割と活動内容（病院、地域）医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士	
5	専門職の理解③	各専門職の役割と活動内容（病院、地域）言語聴覚士、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技師	
6	専門職の理解④	各専門職の役割と活動内容（病院、地域）介護福祉士、MSW、保健師	
7	専門職の理解⑤	各専門職が考える多職種連携の概念 自らが目指す職種の役割と活動内容と活動の限界	
8	終講時試験	まとめ／筆記試験	

評価	筆記試験100%
テキスト	
参考図書	
留意事項	

# シラバス

(2022年度)



学校法人巨樹の会  
武雄看護リハビリテーション学校  
看護学科

# 目 次

## 【教育課程内訳・評価計画】

教育課程内訳	1
看護学科 評価計画	2~4

## 【基礎分野】

情報科学	5
------	---

## 【専門基礎分野】

消化器・腎泌尿器・女性生殖器の疾病と回復の促進	6~7
脳神経・運動器・感覚器の疾病と回復の促進	8~9
内分泌・膠原病・感染症・アレルギーの疾病と回復の促進	10
微生物学Ⅱ（感染と防御）	11
公衆衛生学	12
社会福祉	13
関係法規	14~15

## 【専門分野Ⅰ】

看護研究の基礎	16
---------	----

## 【専門分野Ⅱ】

セルフマネジメントが必要な成人の看護	17
生命が危機状況にある成人の看護	18
セルフケアを再獲得する成人の看護	19~20
治療困難な状況にある成人の看護	21~22
健康障害を持つ成人の看護過程	23
高齢者のヘルスアセスメントと看護援助	24
健康障害をもつ高齢者の看護	25
健康障害をもつ高齢者の看護過程	26

健康障害をもつ小児の看護	.....	27
小児看護技術	.....	28
健康障害をもつ小児の看護過程	.....	29
母性看護学概論	.....	30
妊娠期・分娩期の看護	.....	31
産褥期・新生児期の看護	.....	32
母性機能に障害をもつ人の看護	.....	33~34
精神看護学概論	.....	35
こころの健康	.....	36
こころを病む人と医療	.....	37
こころを病む人の看護の展開	.....	38~39

**【統合分野】**

在宅看護概論	.....	40
在宅看護の対象と法制度	.....	41
在宅における看護技術	.....	42
在宅療養している人の看護過程	.....	43
統合看護技術	.....	44
国際看護	.....	45
災害看護	.....	46
看護管理	.....	47
医療安全	.....	48

教育課程内訳

評価計画

分野	教育内容	授業科目名	単位	時間	実施学年・時間		
					1年	2年	3年
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30	30		
		健康科学	1	15	15		
		情報科学	1	30		30	
	人間と生活、社会の理解	心理学	1	30	30		
		成長発達論	1	30	30		
		人間関係論	1	30	30		
		倫理学	1	30	30		
		教育学	1	30	30		
		家族社会学	1	30	30		
		文化人類学	1	15	15		
		生活科学	1	30	30		
		英語Ⅰ（医療に関する基礎英語）	1	30	30		
		英語Ⅱ（英会話）	1	30	30		
基礎分野 小計		13	360	330	30	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の発生と構造・血液の成分と機能	1	30	30		
		呼吸・循環の構造と機能	1	30	30		
		消化・内分泌・腎泌尿・生殖の構造と機能	1	30	30		
		脳神経・骨格・筋・感覚の構造と機能	1	30	30		
		生化学	1	30	30		
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病の発生と病理的变化	2	30	30		
		呼吸器・循環器・血液系血管の疾病と回復の促進	1	30	30		
		消化器・腎泌尿器・女性生殖器の疾病と回復の促進	1	30		30	
		脳神経・運動器・感覚器の疾病と回復の促進	1	30		30	
		内分泌・膠原病・感染症・アレルギーの疾病と回復の促進	1	30		30	
		微生物学Ⅰ（微生物の基礎）	1	15	15		
		微生物学Ⅱ（感染と防御）	1	30		30	
		栄養学	1	30	30		
		薬理学Ⅰ（薬物の作用機序）	1	15	15		
		薬理学Ⅱ（薬物療法と看護）	1	30	30		
	健康支援と社会保障制度	総合医療論	1	15	15		
		公衆衛生学	2	30			30
		社会福祉	2	30			30
		関係法規	2	30			30
	専門基礎分野 小計		23	525	315	120	90

専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30	30		
		看護過程の基礎	2	45	45		
		看護研究の基礎	1	30		30	
		共通看護技術1	1	30	30		
		共通看護技術2	1	30	30		
		日常生活援助技術1	1	30	30		
		日常生活援助技術2	1	30	30		
		ヘルスアセスメント	1	30	30		
		診療に伴う看護技術	1	30	30		
	臨床看護総論	1	15	15			
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ-1（対象と療養環境を知る）	1	15	15		
		基礎看護学実習Ⅰ-2（日常生活の援助技術）		30	30		
		基礎看護学実習Ⅱ（看護過程の展開）	2	90		90	
	専門分野Ⅰ 小計		14	435	315	90	30

分野	教育内容	授業科目	単位	時間	実施学年・時間		
					1年	2年	3年
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	30	30		
		セルフマネジメントが必要な成人の看護	1	30		30	
		生命が危機状況にある成人の看護	1	30		30	
		セルフケアを再獲得する成人の看護	1	30		30	
		治療困難な状況にある成人の看護	1	30		30	
		健康障害を持つ成人の看護過程	1	30		30	
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	30		
		高齢者のヘルスアセスメントと看護援助	1	30		30	
		健康障害をもつ高齢者の看護	1	30		30	
		健康障害をもつ高齢者の看護過程	1	15		15	
	小児看護学	小児看護学概論	1	30	30		
		健康障害をもつ小児の看護	1	30		30	
		小児看護技術	1	30		30	
		健康障害をもつ小児の看護過程	1	15		15	
	母性看護学	母性看護学概論	1	15		15	
妊娠期・分娩期の看護		1	30		30		
産褥期・新生児期の看護		1	30		30		
母性功能に障害をもつ人の看護		1	30		30		
精神看護学概論		1	15		15		
精神看護学	こころの健康	1	30		30		
	こころを病む人と医療	1	30		30		
	こころを病む人の看護の展開	1	30		30		
臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90		90		
	成人看護学実習Ⅱ	2	90		90		
	成人看護学実習Ⅲ	2	90		90		
	老年看護学実習Ⅰ	2	90		90		
	老年看護学実習Ⅱ	2	90		90		
	小児看護学実習	2	90		90		
	母性看護学実習	2	90		90		
精神看護学実習	2	90		90			
専門分野Ⅱ 小計		38	1320	90	780	450	

統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	1	15		15	
		在宅看護の対象と法制度	1	30		30	
		在宅における看護技術	1	30		30	
		在宅療養している人の看護過程	1	30		30	
	看護の統合と実践	統合看護技術	1	30		30	
		国際看護	1	15		15	
		災害看護	1	15		15	
		看護管理	1	15		15	
		医療安全	1	15		15	
	臨地実習	在宅看護論実習	2	90		90	
統合実習		2	90		90		
統合分野 小計		13	375	0	135	240	

教育内容	単位	総時間数	1年	2年	3年
基礎分野	13	360	330	30	0
専門基礎分野	23	525	315	120	90
専門分野Ⅰ	14	435	315	90	30
専門分野Ⅱ	38	1320	90	780	450
統合分野	13	375	0	135	240
総時間	101	3015	1050	1155	810

評価計画 (2022年)

分野	授業科目	単元	履修学年	単位	時間	配点	満点	評価責任者	
基礎分野	論理学		1年	1	30	100	100		
	健康科学		1年	1	15	100	100		
	情報科学		2年	1	30	100	100	高崎 光浩	
	心理学		1年	1	30	100	100		
	成長発達論		1年	1	30	100	100		
	人間関係論		1年	1	30	100	100		
	倫理学		1年	1	30	100	100		
	教育学		1年	1	30	100	100		
	家族社会学		1年	1	30	100	100		
	文化人類学		1年	1	15	100	100		
	生活科学		1年	1	30	100	100		
	英語 I		1年	1	30	100	100		
英語 II		1年	1	30	100	100			
専門基礎分野	人体の発生と構造・血液の成分と機能		1年	1	30	100	100		
	呼吸・循環の構造と機能		1年	1	30	100	100		
	消化・内分泌・腎泌尿・生殖の構造と機能		1年	1	30	100	100		
	脳神経・骨格・筋・感覚の構造と機能		1年	1	30	100	100		
	生化学		1年	1	30	100	100		
	疾病の発生と病理的变化		1年	2	30	100	100		
	呼吸器・循環器・血液造血器の疾病と回復の促進	呼吸器・血液循環器	1年	1	30	17 5	70 30	100	
	消化器・腎泌尿器・女性生殖器の疾病と回復の促進	消化器	2年	1	30	4	70	100	松本 淳
						5			徳永 裕貴
						2			藤田 博正
						6			山元 謙太郎
	腎泌尿器	9	30	前田 篤宏					
		4		平井 朋恵					
	脳神経	2年	1	30	15	50	100	大中 洋平	
					9	50		西野 将史	
	感覚器				4			森田 和	
	内分泌・膠原病・感染症・アレルギーの疾病と回復の促進		2年	1	30	100	100	丸山 誠代	
	微生物学 I		1年	1	15	100	100		
	微生物学 II		2年	1	30	100	100	菖蒲池 健夫	
	栄養学		1年	1	30	100	100		
薬理学 I		1年	1	15	100	100			
薬理学 II		1年	1	30	100	100			
総合医療論		1年	1	15	100	100			
公衆衛生学		3年	2	30	100	100	蒲原 知愛子		
社会福祉		3年	2	30	100	100	日高 浩太郎		
関係法規		3年	2	30	100	100	北垣 浩志		

分野	授業科目	単元	履修学年	単位	時間	配点	満点	評価責任者	
専門分野Ⅰ	看護学概論		1年	1	30	100	100		
	看護過程の基礎		1年	2	45	100	100		
	看護研究の基礎		3年	1	30	100	100	石丸 律子	
	共通看護技術 1		1年	1	30	100	100		
	共通看護技術 2		1年	1	30	100	100		
	日常生活援助技術 1		1年	1	30	100	100		
	日常生活援助技術 2		1年	1	30	100	100		
	ヘルスアセスメント		1年	1	30	100	100		
	診療に伴う看護技術		1年	1	30	100	100	樺澤 秀美	
	臨床看護総論		1年	1	15	100	100		
専門分野Ⅱ	成人看護学概論		1年	1	30	100	100		
	セルフマネジメントが必要な成人の看護		2年	1	30	100	100	古賀 恭子	
	生命が危機状況にある成人の看護		2年	1	30	24	100	100	山口 真喜子
		6				井手 宏直			
	セルフケアを再獲得する成人の看護		2年	1	30	100	100	100	中川 みどり
	治療困難な状況にある成人の看護	緩和・ターミナルケアとは がん看護・白血病患者の看護							24
	健康障害を持つ成人の看護過程	急性期患者の看護過程	2年	1	30	10	35	100	山口 真喜子
		慢性期患者の看護過程				10	30		樺澤 秀美
		終末期看護の看護過程				10	35		石丸 律子
	老年看護学概論		1年	1	30	100	100		
	高齢者のヘルスアセスメントと看護援助		2年	1	30	100	100	坂本 清	
	健康障害をもつ高齢者の看護	機能障害のある患者の看護	2年	1	30	15	50	100	片渕 知子
		症状看護				15	50		坂本 清
	健康障害をもつ高齢者の看護過程		2年	1	15	100	100	坂本 清	
	小児看護学概論		1年	1	30	100	100		
	健康障害をもつ小児の看護		2年	1	30	100	100	井田 裕子	
	小児看護技術		2年	1	30	100	100	工藤 広大朗	
健康障害をもつ小児の看護過程		2年	1	15	100	100	工藤 広大朗		
母性看護学概論		2年	1	15	100	100	納富 裕子		
妊娠期・分娩期の看護		2年	1	30	15	50	100	酒井 枝津子	
					15	50		大島 玲子	
産褥期・新生児期の看護		2年	1	30	15	50	100	酒井 枝津子	
					15	50		納富 裕子	
母性機能に障害をもつ人の看護		2年	1	30	50	100	井田 裕子		

分野	授業科目	単元	履修学年	単位	時間	配点	満点	評価責任者		
専門分野Ⅱ	精神看護学概論		2年	1	15	100	100	松本 和彦		
	こころの健康		2年	1	30	100	100	山下 幸司		
	こころを病む人と医療		2年	1	30	100	100	松本 和彦		
	こころを病む人の看護過程の展開	看護過程の展開	ケア方法	2年	1	30	15	50	100	渊 一郎
15		50				尾形 広知				
統合分野	在宅看護概論		2年	1	15	100	100	太田 裕美子		
	在宅看護の対象と法制度		2年	1	30	100	100	小池 久美		
	在宅における看護技術	日常生活援助	診療の補助技術	2年	1	30	15	50	100	永松 五百恵
		15				50	太田 裕美子			
	在宅療養している人の看護過程		2年	1	30	100	100	太田 裕美子		
	統合看護技術			3年	1	30	4	100	100	永尾 早苗
		26				樺澤 秀美				
	国際看護			2年	1	15	100	100	藤田 さやか	
									大室 和也	
災害看護			3年	1	15	9	100	100	秋永 和之	
					6					
看護管理			3年	1	15	100	100	田川 由美子		
医療安全			2年	1	15	100	100	波多 純一		

# 基礎分野

分野	基礎	授業科目	情報科学		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	2 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	高崎 光浩	実務経験		講師所属	佐賀大学 医学部付属病院	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

- ・ 根拠に基づく医療・看護 (EBM: Evidence Based Medicine, EBN: Evidence Based Nursing) を実践するために不可欠な、情報処理に関するリテラシーを身につける。
- ・ 医療分野における ICT (Information and Communication Technology: 情報通信技術) 利活用について理解する。

#### 2. 学習目標

- ・ 情報処理の基本について理解する
- ・ 情報を効率よく取り扱うためにコンピュータソフトや情報サービスを活用できる
- ・ コミュニケーションの手段としてコンピュータや情報サービスを利用できる。
- ・ 医療分野における情報化について学び、現状の問題点について説明できる。

#### 3. 授業内容

- ・ 情報と情報処理、コンピュータの基礎
- ・ アプリケーションの活用① (効率よい文書作成: ワードプロセッサ [Microsoft Word])
- ・ アプリケーションの活用② (データ分析: 表計算ソフト [Microsoft Excel])
- ・ アプリケーションの活用③ (説明と表現: プレゼンテーションソフト [Microsoft PowerPoint])
- ・ 情報検索
- ・ 医療情報システムについて
- ・ 医療情報の安全な取り扱いについて

### 授業の進め方 / 履修上の注意

毎回、授業の前半は基礎的な知識を学ぶ講義、後半は (パソコンを用いた) 演習を行う。  
講義資料は e ラーニングシステムにて提示し、授業はその資料に沿って進行する。

### テキスト

教科書は特に指定しないが、毎回必要な資料を e ラーニングシステムで提供する。

### 参考図書

講義中に必要に応じて紹介する。

### 評価方法

学期末の試験の成績、授業中の課題提出状況とその評価点、授業中の意欲 (質問、演習時の他の学生とのコミュニケーション等) を基に総合的に判断する。

# 專門基礎分野

分野	専門基礎	授業科目	消化器・腎泌尿器・女性生殖器の疾病と回復の促進		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	藤田 博正/ 前田 篤宏/ 平井 朋恵 ほか	実務経験	医師	講師所属	新武雄病院 / 前田病院 武雄レディースクリニック	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

消化器・腎泌尿器

消化器・腎泌尿器の病態・症状・治療について理解できる。

女性生殖器

婦人科疾患の領域を理解し、各疾患の症状・治療を理解する。

#### 2. 学習目標

消化器・腎泌尿器

人体の仕組みを振り返りながら病態生理を学ぶ。

まず、消化器・腎泌尿器の正常な働きを振り返り、それから異常(病気)の状態を学ぶ。

また、病気の状態を判断するための検査・それを回復させるための治療の基本を学ぶ。

女性生殖器

正常と異常の判断ができ、年齢や生殖活動に合わせた対応ができる。

#### 3. 授業内容

次ページに記載

### 授業の進め方 / 履修上の注意

消化器・腎泌尿器

教科書の内容を中心として、必要に応じて資料などを活用しながら講義を進めていく。

女性生殖器

テキストを中心として必要により資料を提示する。

### テキスト

『系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器』

『系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎泌尿器』

『系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器』

### 参考図書

### 評価方法

筆記試験

授業科目	消化器・腎泌尿器・女性 生殖器の疾病と回復の促進	担当講師	藤田博正 / 前田 篤宏 平井 朋恵 ほか
------	-----------------------------	------	--------------------------

## 授業概要

### 3. 授業内容

#### 消化器

- 1) 消化器の構造と機能、症状とその病態生理、検査と治療・処置
- 2) 食道の疾患と病態生理
- 3) 胃・十二指腸の疾患と病態生理
- 4) 腸および腹膜疾患と病態生理
- 5) 肝臓・胆嚢の疾患と病態生理
- 6) 膵臓の疾患と病態生理
- 7) 急性腹症
- 8) 腹部外傷

#### 腎泌尿器

- 1) 腎不全（急性・慢性）
- 2) 原発性糸球体腎炎（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群）
- 3) 前立腺肥大
- 4) 尿路結石
- 5) 膀胱がん、前立腺がん

#### 女性生殖器

- 1) 女性生殖器の構造及び機能・婦人科診察の手段
- 2) ホルモンと月経の話（初経から閉経まで、先天性疾患など）
- 3) 子宮の病気（子宮癌、子宮筋腫、子宮脱など）診断・治療
- 4) 卵巣・卵管の病気（卵巣癌、卵巣のう腫など）診断・治療

分野	専門基礎	授業科目	脳神経・運動器・感覚器の 疾病と回復の促進		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	大中 洋平/ 西野 将史/ 森田 和 ほか	実務経験	医師	講師所属	新武雄病院 / 新武雄病院 新武雄病院 ほか	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

脳神経・運動器・感覚器疾患の病態・症状・治療について理解できる。

#### 2. 学習目標

人体の仕組みを振り返りながら病態生理を学ぶ。

まず、脳神経・運動器・感覚器の正常な働きを振り返り、それから異常(病気)の状態を学ぶ。

また、病気の状態を判断するための検査・それを回復させるための治療の基本を学ぶ。

#### 3. 授業内容

次ページに記載

### 授業の進め方 / 履修上の注意

教科書の内容を中心として、必要に応じて資料などを活用しながら講義を進めていく。

### テキスト

『系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳・神経』

『系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [10] 運動器』

『系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [12] 皮膚』

『系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [13] 眼』

『系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉』

『系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [15] 口腔』

### 参考図書

講義の中で適宜紹介する

### 評価方法

筆記試験

授業科目	脳神経・運動器・感覚器の 疾病と回復の促進	担当講師	大中 洋平/ 西野 将史/ 森田 和 ほか
------	--------------------------	------	-----------------------------

## 授業概要

### 3. 授業内容

#### 脳神経

- 1) 脳神経の構造と機能、症状とその病態、検査と治療・処置
- 2) 脳疾患と病態生理：脳血管障害、脳腫瘍、脳の感染症、頭部外傷、水頭症
- 3) 脊髄疾患と病態生理：脊髄血管障害、脊髄動静脈奇形、脊髄炎、頸椎症・腰痛症
- 4) 末梢神経障害：多発性ニューロパチー
- 5) 神経・筋疾患：重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症、多発性筋炎、皮膚筋炎
- 6) 中毒
- 7) てんかん
- 8) 認知症：アルツハイマー、脳血管性認知症、ピック病

#### 運動器

- 1) 運動器の構造と機能、症状とその病態、検査と治療・処置
- 2) 外傷性の運動器疾患：骨折、脱臼、捻挫、打撲、神経損傷
- 3) 内因性の運動器疾患：先天性疾患、骨・関節の炎症性疾患、骨腫瘍、代謝性骨疾患、筋・腱の疾患、神経の疾患、上肢・上肢帯の疾患、下肢・下肢帯の疾患、脊髄

#### 感覚器

- 1) 感覚器の構造と機能、症状とその病態、検査と治療・処置

分野	専門基礎	授業科目	内分泌・膠原病・感染症・アレルギーの疾病と回復の促進		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	丸山 誠代	実務経験	医師	講師所属	なごみといやしのクリニック	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

内分泌・膠原病・感染症・アレルギー疾患の病態・症状・治療について理解できる。

#### 2. 学習目標

人体の仕組みを振り返りながら病態生理を学ぶ。

まず、消化器・腎泌尿器の正常な働きを振り返り、それから異常(病気)の状態を学ぶ。

また、病気の状態を判断するための検査・それを回復させるための治療の基本を学ぶ。

#### 3. 授業内容

##### 内分泌

- |                     |                  |
|---------------------|------------------|
| 1) 視床下部：下垂体前葉系疾患    | 2) 視床下部：下垂体後葉系疾患 |
| 3) 甲状腺疾患            | 3) 副甲状腺疾患        |
| 5) 性腺疾患             | 6) 消化管ホルモン産生腫瘍   |
| 7) 糖尿病              | 8) 高脂血症          |
| 9) 肥満症とメタボリックシンドローム | 10) 尿酸代謝障害       |

##### 膠原病・アレルギー

- |  |             |
|--|-------------|
| 1) アレルギーの理解：呼吸器・消化器・皮膚・薬物のアレルギーおよびアナフィラキシー                                       |             |
| 2) 膠原病の理解：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性硬化症、血管炎症候群、多発性筋炎、混合性結合組織病、ページェット病など近年問題となっている感染症 |             |
| 1) 発熱・不明熱  | 2) 真菌症感染症   |
| 3) HIV感染症と日和見感染症   | 4) 多剤耐性菌感染症 |

### 授業の進め方 / 履修上の注意

教科書の内容を中心として、必要に応じて資料などを活用しながら講義を進めていく。

### テキスト

『系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6] 内分泌・代謝』

『系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [11] アレルギー・膠原病・感染症』

### 参考図書

講義の中で適宜紹介する

### 評価方法

筆記試験 (マークシート方式)

分野	専門基礎	授業科目	微生物学Ⅱ (感染と防御)		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	菖蒲池 健夫	実務経験	薬剤師	講師所属	佐賀大学 医学部	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

ヒトに病原性をもつ微生物とその感染症、それらの感染を予防する方法について理解することにより、医療現場における感染を防止し、来院者を適切に看護する能力を養う。

#### 2. 学習目標

- |                             |                      |
|-----------------------------|----------------------|
| 1) 感染症の予防について理解する           | 2) 感染症の治療について理解する    |
| 3) 感染症の検査・診断について理解する        | 4) 感染症の現状と対策について理解する |
| 5) さまざまな微生物とそれらがおこす感染症を理解する |                      |

#### 3. 授業内容

- 1) 感染症の予防 (滅菌、消毒、予防接種)
- 2) 感染症の検査・診断
- 3) 感染症の治療 (化学療法)
- 4) 感染症の現状と対策 (新興・再興感染症、院内感染、薬剤耐性菌、感染症法)
- 5) 細菌 1 (グラム陽性球菌、グラム陰性球菌)
- 6) 細菌 2 (グラム陰性好気性桿菌、グラム陰性通性菌)
- 7) 細菌 3 (らせん菌、グラム陽性桿菌、抗酸菌)
- 8) 細菌 4 (嫌気性菌)
- 9) 細菌 5 (スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア)
- 10) 真菌
- 11) 原虫
- 12) ウイルス 1 (DNAウイルス)
- 13) ウイルス 2 (RNAウイルス)
- 14) ウイルス 3 (レトロウイルス、肝炎ウイルス)
- 15) ウイルス 4 (腫瘍ウイルス、プリオン)

### 授業の進め方 / 履修上の注意

テキストを中心に、適宜プリントやスライドを併用して講義する。

### テキスト

『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学』《医学書院》

### 参考図書

### 評価方法

出席状況、質疑応答および筆記試験の成績によって総合的に評価する

分野	専門基礎	授業科目	公衆衛生学		単位 (時間数)	2単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	蒲原 知愛子	実務経験	看護師	講師所属		

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

公衆衛生活動を学び、人々の健康とはなにか、健康づくりのための組織とはなにか、医療従事者としての役割機能の理解を深める。

#### 2. 学習目標

- 1) 公衆衛生活動の領域・特徴を学ぶ
- 2) 健康の定義と予防医学、健康づくりについて学ぶ
- 3) 地域・職域保健活動の取組みを学ぶ
- 4) 公衆衛生とは何か述べることができる。

#### 3. 授業内容

- 1) ~ 2) 公衆衛生の概念・活動対象
- 3) ~ 4) 健康の指標 (人口静態 人口動態 受療状況) ・疫学的手法
- 5) ~ 6) 公衆衛生のしくみ・環境保健
- 7) ~ 8) 地域保健 (母子保健・成人保健・高齢者保健)
- 9) ~ 10) 地域保健 (精神保健・難病支援・感染症対策)
- 11) ~ 12) 健康危機管理・災害保健・国際保健
- 13) ~ 14) 学校保健・産業保健

### 授業の進め方 / 履修上の注意

教科書の内容に沿って講義を行う  
国民衛生の動向を参考図書とする

### テキスト

『系統看護学講座 専門基礎分野 [2] 公衆衛生』《医学書院》

### 参考図書

『国民衛生の動向』2022/2023 《厚生統計協会》

### 評価方法

筆記試験による評価

分野	専門基礎	授業科目	社会福祉		単位 (時間数)	2単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	日高 浩太郎	実務経験	17年	講師所属	東京リーガルマインド	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

看護師は「病気ではなく、病人をみる」。

また、人間の健康に関わる事項に社会のさまざまな立場から関わる看護師にとって、年金・医療・福祉などの社会保障や社会福祉の各制度の理解は必須のものである。そのためには、社会保障・社会福祉の成立過程、目的なども含めて理解する。

#### 2. 学習目標

看護師にとって必要な、医療保障や介護保険をはじめとする社会保障制度ならびに、障害者や要介護者が自立した生活が送れるように支援する社会福祉制度について現状を含めて理解する。

#### 3. 授業内容

- |                           |                     |
|---------------------------|---------------------|
| 1) 社会保障制度と社会福祉の成立過程       | 2) 社会保障の種類、構造、目的、機能 |
| 3) 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向   | 4) 医療保障             |
| 5) 介護保障                   | 6) 所得保障             |
| 7) 公的扶助 (生活保護の現状と問題点と脱却へ) | 8) 社会福祉の分野とサービス     |
| 9) 社会福祉実践と医療・看護           | 10) 社会福祉の歴史         |

### 授業の進め方 / 履修上の注意

講義・問題を指定して解答してもらう

### テキスト

『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉』《医学書院》

### 参考図書

『国民衛生の動向』

その他講義中に適宜紹介する

### 評価方法

筆記試験、授業態度など総合的に評価する

分野	専門基礎	授業科目	関係法規		単位 (時間数)	2単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	北垣浩志	実務経験		講師所属	佐賀大学	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

次ページに記載

#### 2. 学習目標

次ページに記載

#### 3. 授業内容

細部は教育計画大綱による

### 授業の進め方 / 履修上の注意

授業の導入にあたって

1) 各法律教育項目の授業内容及びネライを説明

2) 医療環境を念頭に置いた教育

・少子高齢化・労働能力人口(15歳～65歳)・失業率・出生率・医療費の増大等、現代社会を取り巻く医療環境の背景を統計的に説明。

(この際、とくに法制定改正の根拠・必要性を強調する)

法規教育授業にあたって

1) 国の政策

例: すこやか親子21・エンゼルプラン・ゴールドプラン等の重視事項を当該法規と併せて説明。

2) 単一法規教育に終始せず、当該法規に関連する法規を併せて体系的に教育する。

例: 各種法規にまたがる守秘義務等

3) 疑問を後に残さない教育及び言葉の定義の説明

言葉の意味を曖昧にさせない。

例1: 刑の執行が終わり、又は刑の執行を受けることがなくなるまでの定義

例2: 直ちに・速やかな時期的関連

例3: 看做すと推定の意味の違い

例4: 権利を要求する場合の申請による場合と自動的に権利が発生する場合

例5: 定義の把握、褥婦・新生児・妊産婦・周産期・幼児・児童

4) 一方的教育は努めて避けるとともに、授業の途中で学生の理解度等を確認するとともに、教育の関心度を高める。

5) 関係条文の理解・解釈

物事を考えるに当たり、どの法律とどの法律を組み合わせ解釈しうる能力の基盤の育成。

6) 看護事例を努めて多く紹介、追体験をさせる。

教育終了にあたって

過去の国家試験問題を中心に要点の整理に努める。

演習を授業に積極的に取り入れ、頭とともに手を動かして内容が定着するようにする。

教育の終始にあたり、視聴覚に訴える教育

(教育資機材の活用に努める)

授業科目	関係法規	担当講師	北垣 浩志
<p><b>授業概要</b></p> <p>1. 授業のねらい (学習目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種医療法規及び、労働法規等を学ぶことにより、看護業務上必要な法規条文のエッセンスの取得及び、法体系・法解釈・法適用の基礎を確立する。</li> <li>・行為規範及び行動の準拠である法を学ぶことにより看護師としての自分の地位・役割が明確になる。</li> <li>・法を学ぶことにより、物の見方、考え方が身につく、問題解決の糸口を見直し、業務の幅を拓ける。</li> <li>・法を学ぶことにより、業務上及び私人としての権利、業務関係が明確になり、且つ5W1H (いつ・だれが・どこで・なにを・どのように) の立場で適時的確な行動規範を取れるようにする。</li> <li>・看護者としての地位・役割を明確にさせる。</li> <li>・自学研鑽の気風を助長する。</li> <li>・コンプライアンス (法令遵守) の精神を助長する。</li> </ul> <p>2. 学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法の適用及び解釈にあたり、どの法律とどの法律を組み合わせると考えたらよいか理解できるようになる。</li> <li>・法体系を知ることにより、どこにどのようなことが規定されているか認知できる。 (法の条文を丸暗記するのではなく、法の目的、趣旨から内容を判断することができる。)</li> <li>・法律が規定する権利義務関係を承知することにより、次の者の権利・利益を保護し得る。 ①対象者である患者及びその家族 ②看護人である自分自身 ③病院組織</li> <li>・常日頃、看護者として自学研鑽に努めなければ色々変化する医療環境に追随していけない事を認識させることができる。</li> </ul>			
<p><b>テキスト</b></p> <p>健康科学・保健医療系学問における環境と法律 (三恵社)</p> <p><b>参考図書</b></p> <p>『医療関係法規』《MCメデカル出版》定価 3,000 円 (本体+税)</p> <p>『医療関係法規 新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度 4』木戸修・山本光昭 (編) 《メディカルフレンド社》定価 2,415 円 (本体+税)</p> <p>『看護職のための関係法規』杉本正子・眞船拓子・南方唾・甲斐克典 (編) 《ヌーグェル・ヒロカワ》定価 2,415 円 (本体+税)</p> <p>『看護職のための社会福祉・社会保障』杉本正子・眞船拓子・結城俊哉・丸山美知子 (編) 《ヌーグェル・ヒロカワ》定価 2,310 円 (本体+税)</p> <p>『看護師・保健師国家試験対策ブック』今西春彦 (編著)《MCメデカル出版》定価 1,400 円 (本体+税)</p> <p>『保健師・看護師国試対策 関係法規 2011 ラ・スパ』テコム編集委員会 (編) 《医療評論者》 定価 1,900 円 (本体+税)</p>			
<p><b>評価方法</b></p> <p>期末テストによる</p>			

# 専門分野 I

分野	専門 I	授業科目	看護研究の基礎			単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
						講義回数	14 回+テスト
開講年次	3 年次	開講時期	前期	後期	通年		
担当講師	石丸 律子	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校		

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

- 1) 看護研究の意義と内容を理解し、興味・関心を高めることができる。
- 2) 看護研究に必要な基礎的知識・技術を身につけることができる

#### 2. 学習目標

- 1) 看護研究の意義・目的について理解できる。
- 2) 研究に必要な文献を的確に検索・収集する技術を身につけることができる。
- 3) 関連領域の論文を読み、クリティカルシンキングの重要性について理解できる。
- 4) 看護研究プロセス (問題意識の明確化、研究の進め方、倫理的配慮) における基本事項を理解できる。
- 5) 研究方法を理解できる (研究デザイン・研究計画書の立案・データ収集・分析・論文構成・発表)

#### 3. 授業内容

- 1) 看護研究とは
- 2) 看護研究の特徴と展開
- 3) 看護研究のプロセスと方法を学ぶ

### 授業の進め方 / 履修上の注意

- ・講義と実践を通じて研究について一連の方法を学ぶ

### テキスト

- 『看護研究こころえ帳』李節子《医歯薬出版株式会社》〈2022〉  
『看護研究』坂下玲子《医学書院》〈2022〉

### 参考図書

- 『看護学生のためのケーススタディ』高橋百合子《メヂカルフレンド社》〈2013〉  
『ひとりで学べる 看護研究』山口瑞穂子・石川ふみよ《照林社》〈2013〉

### 評価方法

- 講義・課題に取り組む姿勢・態度、客観式テストにて評価

# 専門分野Ⅱ

分野	専門Ⅱ	授業科目	セルフマネジメントが必要な成人の看護		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	古賀 恭子	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

### 授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)  
慢性期にある対象を3側面から捉え、セルフマネジメントの支援方法を学ぶ
2. 学習目標
  - 1) 慢性病が成人の社会生活に及ぼす影響を考え3側面から対象を理解できる
  - 2) 慢性期にある対象にとってセルフマネジメントの必要性が理解できる
  - 3) 慢性期にある対象がセルフマネジメントを身につけるための学習支援方法を理解できる
3. 授業内容
  - 1) 慢性病との共存を支える看護
    - ・慢性病患者の理解
    - ・病みの軌跡 ・健康信念モデル
    - ・エンパワーメント ・自己効力
    - ・セルフケアとセルフマネジメント ・セルフマネジメント支援の構成要素
  - 2) 学習者である患者への看護技術
    - ・セルフマネジメントを推進する看護技術
  - 3) 症状マネジメントにおける看護技術
    - ・症状マネジメントと看護
    - ・症状マネジメントと看護実践モデル
  - 4) 糖尿病と共に生きる患者のセルフマネジメント支援
    - ・糖尿病に関する知識を深める ・日常生活行動の再獲得を支援する看護援助
    - ・血糖コントロール、薬物療法のある生活への援助 ・共同目標の設定
  - 5) 腎不全と共に生きる患者のセルフマネジメント支援
    - ・腎不全に関する知識を深める ・透析療法 (血液透析・腹膜透析)・腎移植と治療選択
    - ・食事やシャントに関する知識とセルフケア

### 授業の進め方 / 履修上の注意

講義・グループワーク

### テキスト

- 『系統看護学講座 成人看護学総論』《医学書院》  
 『系統看護学講座 成人看護学6 内分泌・代謝』《医学書院》  
 『系統看護学講座 成人看護学8 腎・泌尿器』《医学書院》

### 参考図書

随時紹介する

### 評価方法

出席状況・授業態度・グループワーク参加状況、筆記試験を総合して評価する

分野	専門Ⅱ	授業科目	生命が危機状況にある 成人の看護		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	2 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	井手 宏直 山口 真喜子	実務経験	看護師	講師所属	新武雄病院 武雄看護リハビリテーション学校	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

健康状態が急変し、生命の危機状況にある人とその家族の身体的、心理・社会的特徴について理解し、その特徴を踏まえた看護実践を提供するための基礎知識の習得

#### 2. 学習目標

- 1) 急性期、急性期看護の概念について理解できる
- 2) 周手術期について理解できる
- 3) 救急医療の現状と救急医療における看護について理解できる

#### 3. 授業内容

- 1) 急性期看護とは
  - ・ 急性の状態にある患者の身体的・心理的反応
  - ・ 急性の状態にある患者と家族に対する看護
- 2) 周手術期看護
  - ・ 周手術期看護とは
  - ・ 手術前期の看護
  - ・ 手術室看護
  - ・ 手術後期の看護
- 3) 救急医療における看護
  - ・ 救急看護とは
  - ・ 救急患者の特徴
- 4) 集中治療下での看護
  - ・ 心筋梗塞患者の看護 (PCI・IABP など)
  - ・ 人工呼吸器装着中の患者

### 授業の進め方 / 履修上の注意

基本的に配布した資料に基づいて講義をします。  
適宜、事例を使用して、患者のアセスメントの演習を実施します。

### テキスト

- 『臨床外科看護総論』《医学書院》  
『臨床外科看護各論』《医学書院》  
『救急看護学』《医学書院》

### 参考図書

- 『ナースのための術前・術後ケア』《学研》

### 評価方法

講義受講態度、出席状況、身だしなみ、レポート提出状況等、筆記試験を総合して評価する。

分野	専門Ⅱ	授業科目	セルフケアを再獲得する 成人の看護			単位 (時間数)	1単位 (30時間)
						講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年		
担当講師	中川 みどり	実務経験	看護師	講師所属	新武雄病院		
<b>授業概要</b> 1. 授業のねらい (学習目的) 心身の機能・構造に何らかの障害を有し、日々の生活や社会生活に支障を来した人とその家族が障害を抱えながらもその人らしい生活を再構築していく過程を支援する方法を学ぶ。 (脳出血を通して認知障害・コミュニケーション障害・運動機能障害を持つ人の看護、人工肛門造設を通してボディイメージの変化に対する看護や社会復帰に向けた看護 など)  2. 学習目標 セルフケアを再獲得する成人の看護の特徴を学ぶ (脳出血・人工肛門を増設された患者の看護など)  3. 授業内容 次ページに記載							
<b>授業の進め方 / 履修上の注意</b> テキストと資料を中心に講義を進める							
<b>テキスト</b> 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕 成人看護学総論 (医学書院) 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕 消化器 (医学書院) 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕 脳・神経 (医学書院) 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕 運動器 (医学書院)							
<b>参考図書</b>							
<b>評価方法</b> 講義受講態度 (出席状況、身だしなみ、レポート提出状況等)、筆記試験を総合して評価する。							

授業科目	セルフケアを再獲得する 成人の看護	担当講師	中川 みどり
<p><b>授業概要</b></p> <p>3. 授業内容</p> <p>概論</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 中途障害者のセルフケアの再獲得 <ol style="list-style-type: none"> <li>①「喪失」体験とセルフケア再獲得への意欲の湧出</li> <li>②学習の困難さに合わせた支援</li> <li>③人的・物的環境の整備</li> </ol> </li> <li>2) リハビリテーション看護を展開する枠組み <ol style="list-style-type: none"> <li>①WHO国際障害分類</li> <li>②国際生活機能分類（ICF）</li> </ol> </li> <li>3) リハビリテーション看護を必要とする人の特徴 <ol style="list-style-type: none"> <li>①リハビリテーションを必要とする人の身体的特徴</li> <li>②リハビリテーションを必要とする人の生活上の特徴</li> <li>③リハビリテーションを必要とする人の心理的特徴</li> <li>④リハビリテーションを必要とする人の家族の特徴</li> </ol> </li> <li>4) 経過別リハビリテーション <ol style="list-style-type: none"> <li>①急性期のリハビリテーション</li> <li>②回復期のリハビリテーション</li> <li>③維持期のリハビリテーション</li> </ol> </li> <li>5) リハビリテーションを必要とする人への看護援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>①安全を守る看護援助</li> <li>②障害をあった人のこころを支える看護援助（障害受容）</li> <li>③日常生活行動の再獲得を支援する看護援助</li> </ol> </li> <li>6) 生活の再構築を支える社会資源の活用</li> </ol> <p>各論</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 身体機能維持・回復を促す看護援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>①廃用症候群の予防</li> <li>②機能維持・回復のための訓練</li> </ol> </li> <li>2) 安全を守る看護援助</li> <li>3) 日常生活行動の再獲得を支援する看護援助</li> <li>4) 認知障害・コミュニケーション障害を持つ人のリハビリテーション <ol style="list-style-type: none"> <li>①高次脳機能障害をもつ人のリハビリテーション</li> <li>②失語症をもつ人のリハビリテーション</li> </ol> </li> <li>5) 運動機能障害をもつ人のリハビリテーション</li> <li>6) ストーマ造設術を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>①術前～術後の看護</li> <li>②回復期の看護</li> <li>③日常生活についての指導</li> <li>④ボディイメージの変化に対する看護</li> <li>⑤家庭復帰・社会復帰に向けたアセスメント</li> </ol> </li> </ol> <p>③～⑤についてのアセスメント・看護計画</p>			

分野	専門Ⅱ	授業科目	治療困難な状況にある 成人の看護		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	石丸 律子 多久島 圭子	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校 山元記念病院	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

終末期看護とは身体的な健康のレベルが低くなって、不可逆な状態となり死を向かえる時期に提供されるケアを指している。そこで提供されるケアは、終末期という時期の特徴を十分に踏まえたものである必要がある。

石丸

生と死を通して終末期にある患者、家族の特徴と闘病を支える看護師の役割やケアの方法について学ぶ。

多久島

治療期から終末期における看護師の役割について学ぶ。がん医療の進歩に対応したがん看護の実践とその根拠について学ぶ。

#### 2. 学習目標

石丸

終末期の特徴とケアの方法が理解できる。

治療期から終末期における意思決定支援を学ぶ。

全人的苦痛及びそのマネジメントが理解できる。

多久島

がん化学療法及び看護が理解できる。

がん治療とがん看護の実践・化学療法・放射線療法を受ける患者が理解できる。

#### 3. 授業内容

次ページに記載

### 授業の進め方 / 履修上の注意

テキストと資料を中心に講義を進める

#### テキスト

『緩和ケア 第2版』《医学書院》

『系統看護学講座 専門分野 血液・造血器』《医学書院》

『系統看護学講座 別巻 臨床看護総論』《医学書院》

#### 参考図書

『成人看護学 慢性期』《南江堂》

『系統看護学講座 別巻 がん看護』《医学書院》

### 評価方法

講義受講態度 (出席状況、身だしなみ、レポート提出状況等)、筆記試験を総合して評価する。

なお、筆記試験は『治療困難な状況にある成人の看護』としてまとめて実施する。

授業科目	治療困難な状況にある 成人の看護	担当講師	石丸 律子/多久島 圭子
<p><b>授業概要</b></p> <p>3. 授業内容</p> <p>石丸</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 緩和・終末期看護序説 <ol style="list-style-type: none"> <li>①生と死を考える</li> <li>②終末期にある人の身体的・心理・社会・霊的苦痛を考える（一人の患者の死を通して）</li> <li>③終末期・緩和ケアとは</li> <li>④終末期にある人の療養の場と倫理的課題</li> </ol> </li> <li>2) 終末期にある人とその家族のケア <ol style="list-style-type: none"> <li>①家族ケア</li> <li>②意思決定を支えるケア</li> <li>③日常生活を支えるケア</li> <li>④スピリチュアルケア</li> </ol> </li> <li>3) 看取りのケア</li> </ol> <p>石丸・※印は下川</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) がん看護とは</li> <li>※2) がん化学療法と看護</li> <li>3) 放射線療法と看護</li> <li>※4) 症状メカニズムとそのマネジメント <ol style="list-style-type: none"> <li>①倦怠感 ②疼痛 ③浮腫 ④呼吸症状 ⑤消化器症状 ⑥精神症状</li> </ol> </li> <li>※5) 薬剤の活用とその副作用への対処 <ol style="list-style-type: none"> <li>①疼痛コントロール ②倦怠感 ③精神症状</li> </ol> </li> <li>6) 造血器腫瘍患者（白血病患者）の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>①造血器腫瘍検査（骨髄穿刺など）</li> <li>②造血器腫瘍治療（化学療法・造血幹細胞移植・放射線治療）</li> <li>③造血器腫瘍治療における支持療法</li> </ol> </li> <li>7) 主要症状を有する患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>①貧血 ②出血傾向 ③易感染状態</li> </ol> </li> </ol>			

分野	専門Ⅱ	授業科目	健康障害をもつ成人の看護過程			単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
						講義回数	14 回+テスト
開講年次	2 年次	開講時期	前期	後期	通年		
担当講師	石丸 律子 山口 真喜子 樺澤 秀美	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校		
<b>授業概要</b> 1. 授業のねらい (学習目的) さまざまな問題に直面した成人期にある患者の看護過程展開の方法が理解できる。 2. 学習目標 1) セルフマネジメントが必要な患者の事例展開 2) 生命が危機的状況にある患者の事例展開 3) セルフケアを再獲得する患者の事例展開 4) 治癒困難な状態にある患者の事例展開 経過別看護の特徴を踏まえた患者の看護を展開することができる。 3. 授業内容 1 人の成人期にある患者の各病期に応じた看護過程の展開を GW や個人ワークで行っていく							
<b>授業の進め方 / 履修上の注意</b> 各疾患の病態・症状・治療の理解だけでなく、治療・看護の経過別の特徴を踏まえた対象の理解を踏まえた看護の事例展開の演習を行う。 下記のテキストだけでは事例展開は困難であるため、各自必要と思われる書籍を借用するなどして準備しておく。また、講義の形態はグループワークと個人学習を併用する。							
<b>テキスト</b> 『系統看護学講座 専門分野 女性生殖器』《医学書院》 『系統看護学講座 成人看護学総論』《医学書院》 『看護診断ハンドブック』 『患者さんの情報収集ガイドブック』							
<b>参考図書</b> 『成人看護学 慢性期』《南江堂》 『系統看護学講座 別冊 がん看護』《医学書院》 『病気がみえる vol. 9 婦人科・乳腺外科』《メディックメディア》 『看護学生のための実習記録の書き方』《サイト出版》							
<b>評価方法</b> 講義受講態度 (出席状況、身だしなみ、レポート提出状況等)、筆記試験を総合して評価する。 なお、事例展開の内容を一部評価対象とするが、配点や内容は講義開始時に伝える。							

分野	専門Ⅱ	授業科目	高齢者のヘルスアセスメントと看護援助		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	坂本 清	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的) 講師所属

加齢に伴う様々な現象が生活に及ぼす影響を学び、QOLを高める援助や福祉用具・器具の活用方法について理解する。

#### 2. 学習目標

- 1) 老年者の機能低下に応じた日常生活の援助技術を理解できる。
- 2) 対象を取り巻く家族や支える人々との支援関係を気付くための方法を理解できる。

#### 3. 授業内容

第1回	1) 加齢に伴う身体・心理・社会的特徴 2) コミュニケーションと看護ケア
第2回	1) 日常生活活動と評価 2) 廃用症候群について
第3回 / 4回	1) 老年者の身体的特徴 ①視力、聴力の低下 ②身体可動性の障害 2) 老年者の日常生活行動 3) 老年者と環境
第5回	1) 安全な環境とは 2) 起こり易い事故 ①転倒、転落 ②感染
第6回	1) 老年者と食生活 ①栄養と評価 ②アセスメント ③食事の援助
第7回	1) 食事の援助 ①口腔ケア ②義歯の管理 ③食事の工夫
第8回	1) 老年者と排泄 ①排泄障害 ②アセスメント ③援助
第9回	1) 老年者の清潔 ①清潔の援助 ②皮膚のアセスメント
第10回	1) 老年者の生活リズム ①活動・運動 ②休息(睡眠) ③生活リズム
第11回	1) 地域資源を活用した看護の展開 ①在宅高齢者への看護 ②保健医療福祉施設における看護
第12回	1) 地域資源を活用した看護の展開 (介護家族への看護)
第13回 / 14回	1) 高齢者のリスクマネジメント (高齢者と医療安全)
第15回	終講試験

### 授業の進め方 / 履修上の注意

講義、グループワーク等

### テキスト

『系統看護学講座 老年看護学』《医学書院》

### 参考図書

### 評価方法

筆記試験を中心に、レポートの提出状況、グループワークの参加状況等を総合して評価する。

分野	専門Ⅱ	授業科目	健康障害をもつ 高齢者の看護		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	片渕 知子 坂本 清	実務経験	看護師	講師所属	新武雄病院 武雄看護リハビリテーション学校	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

老年期にある対象の特徴と発達段階を理解し、加齢や健康障害の程度に応じた看護を提供するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。

#### 2. 学習目標

老年期に特有な疾患の特徴を知り、残存機能の維持・生活の質に視点をあてた看護の方法が理解できる。

#### 3. 授業内容

- 1) ①脳卒中 (病態・診断・治療・看護ケア) ②検査と看護ケア
- 2) ①心不全 (病態・診断・治療・看護ケア要点)
- 3) ①パーキンソン病・パーキンソン症候群 (病態・診断・治療・看護ケア要点)
- 4) ①インフルエンザ (病態・看護ケア) ②肺炎 (病態・診断・治療・看護ケア要点)
- 5) ①感染性胃腸炎 (病態・診断・治療・看護ケア要点) ②栄養ケア・マネジメント
- 6) ①骨粗鬆症 (病態・診断・治療・看護ケア要点)
- 7) ①骨折・脊椎圧迫骨折・大腿骨頸部骨折 (病態・診断・治療・看護ケア要点)  
②手術療法と看護ケア
- 8) ①褥瘡 (定義、発声機序、看護ケアの要点)
- 9) ①うつ (概念・高齢者のうつ、臨床的特徴、アセスメント)
- 10) ①せん妄 (臨床的特徴・リスク要因・アセスメントと看護ケア) ②薬物療法と看護ケア
- 11) ①認知症 (認知法の基本的構造・診断・治療と予防・評価・ケアの実際)
- 12) 終末期における看護ケア ①高齢者の死 (死のとらえ方・高齢者死亡に関する諸統計)
- 13) 終末期における看護ケア ①終末期ケアとは
- 14) 講義のまとめ (終講試験の傾向と対策)
- 15) 終講試験

### 授業の進め方 / 履修上の注意

講義、グループワーク

### テキスト

『系統看護学講座 老年看護学』《医学書院》

### 参考図書

### 評価方法

講義・受講態度 (出席状況、身だしなみ、レポート提出状況等)、グループワーク参加状況、筆記試験を総合して評価する。

分野	専門Ⅱ	授業科目	健康障害をもつ 高齢者の看護過程		単位 (時間数)	1単位 (15時間)
					講義回数	7回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	坂本 清	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

加齢による変化と複合する疾患を併せもつ高齢者の看護について看護過程を通して学ぶ。  
展開にあたっては、対象の持つ力を引き出せるような展開ができる思考過程を育てることを狙いとする。

#### 2. 学習目標

健康障害をもつ高齢者の生活機能に着眼した看護の展開方法を理解できる。

#### 3. 授業内容

##### 1) 高齢者の特徴と看護の展開

脳血管障害患者の看護事例

##### 2) 高齢者の看護過程

###### ①アセスメント(情報収集・分析・解釈)

i アセスメントに必要な視点 ii アセスメントのための客観的尺度

###### ②看護診断(問題の把握、問題の明確化)

i 顕在化している問題 ii 潜在的な問題の把握

###### ③看護計画

###### ④実施

###### ⑤評価

### 授業の進め方 / 履修上の注意

個人ワークを基にグループで意見交換。

### テキスト

『系統看護学講座 老年看護学』《医学書院》

### 参考図書

『系統看護学講座 脳神経』《医学書院》

『事例で学ぶ老年看護学』《メジカルフレンド社》

『疾患別看護過程VOL. 2』《メジカルフレンド社》

### 評価方法

受講態度 (出席状況、身だしなみ、グループワークの参加状況、レポート提出状況等)、筆記試験を総合的に判断して評価する。

分野	専門Ⅱ	授業科目	健康障害をもつ 小児の看護		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	井田 裕子	実務経験	看護師	講師所属	ママと赤ちゃんの家 からこ	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

小児における特有な代表疾患と症状および看護について学ぶ。

#### 2. 学習目標

- 1) 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常看護について理解できる。
- 2) 新生児の看護について理解できる。
- 3) 代謝性疾患と看護について理解できる。
- 4) 内分泌疾患と看護について理解できる。
- 5) 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患と看護について理解できる。
- 6) 感染症と看護について理解できる。
- 7) 呼吸器疾患と看護について理解できる。
- 8) 循環器疾患と看護について理解できる。
- 9) 消化器疾患と看護について理解できる。
- 10) 血液・造血器疾患と看護について理解できる。
- 11) 悪性新生物と看護について理解できる。
- 12) 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護について理解できる。
- 13) 神経疾患と看護について理解できる。
- 14) 事故と外傷と看護 (応急時の看護) について理解できる。

#### 3. 授業内容

- |                             |                       |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1) 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常看護  | 2) 新生児の看護             |
| 3) 代謝性疾患と看護                 | 4) 内分泌疾患と看護           |
| 5) 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患と看護 | 6) 感染症と看護             |
| 7) 呼吸器疾患と看護                 | 8) 循環器疾患と看護           |
| 9) 消化器疾患と看護                 | 10) 血液・造血器疾患と看護       |
| 11) 悪性新生物と看護                | 12) 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護  |
| 13) 神経疾患と看護                 | 14) 事故と外傷と看護 (応急時の看護) |

### 授業の進め方 / 履修上の注意

講義 (効果的な学習のため、必要に応じて事前課題・事後課題を課す場合がある)

### テキスト

『系統看護学講座専 専門分野 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論《医学書院》

### 参考図書

『看護のための最新医学講座 第14巻 新生児・小児科疾患 改訂第2版』《中山書店》

### 評価方法

講義(出席状況・身だしなみ・レポート提出状況など)筆記試験を総合して評価する。

分野	専門Ⅱ	授業科目	小児看護技術		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	工藤 広大朗	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

小児期の基本的特性を踏まえ、症状や検査・処置時の看護について学び、理解する。  
また、小児看護に特有な看護技術については演習を交えて習得する。

#### 2. 学習目標

- 1) 種々の症状に対する看護について理解できる。
- 2) 検査・処置を受ける小児の看護について理解できる。
- 3) 外来における小児と家族の看護について理解できる。
- 4) 入院時の小児と家族の看護について理解できる。

#### 3. 授業内容

- 1) 症状を示す小児看護
- 2) 検査・処置を受ける小児の看護  
バイタルサイン測定・与薬・輸液管理・抑制・検体採取 (採血・採尿・骨髓穿刺・腰椎穿刺)・  
経管栄養・吸引・吸入・蘇生法
- 3) 外来受診や入院を必要とする小児と家族の看護
- 4) 小児の入院と小児・家族の看護

### 授業の進め方 / 履修上の注意

- ・講義
- ・演習
- ・効果的な学習のため、事前課題・事後課題を課す場合がある。

### テキスト

- ① 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院
- ② 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院

### 参考図書

### 評価方法

グループワークの参加状況・グループワーク後の成果物・筆記試験を総合して評価する。  
※グループワーク後の成果物はグループ単位で評価を行います。

分野	専門Ⅱ	授業科目	健康障害をもつ 小児の看護過程		単位 (時間数)	1単位 (15時間)
					講義回数	7回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	工藤 広大朗	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

疾病の経過別看護として、急性期・慢性期・周手術期・終末期のそれぞれの状況における小児と家族について理解する。

#### 2. 学習目標

- 1) 疾病の経過と看護が理解できる。
- 2) 健康障害を持つ小児と家族の看護について理解できる。
- 3) 障害のある小児と家族の看護について理解できる
- 4) 小児の看護過程の展開の方法が理解できる。

#### 3. 授業内容

- 1) 小児における疾病の経過 (急性期・慢性期・周手術期・終末期) と看護
- 2) 健康障害を持つ小児の生活と看護
- 3) 障害のある小児と家族の看護
- 4) 事例による看護過程の展開

### 授業の進め方 / 履修上の注意

- ・講義
- ・演習
- ・効果的な学習のため、事前課題・事後課題を課す。

### テキスト

- ① 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院
- ② 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院

### 参考図書

### 評価方法

グループワークの参加状況・グループワーク後の成果物・筆記試験を総合して評価する。  
※グループワーク後の成果物はグループ単位で評価を行います。

分野	専門Ⅱ	授業科目	母性看護学概論		単位 (時間数)	1単位 (15時間)
					講義回数	7回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	納富 裕子	実務経験	助産師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

母性看護を取り巻く諸状況(統計・法律を含む)をふまえ、母性の概念及び母性看護の意義を理解する。母性看護の対象である、女性の一生を通じた健康の維持・増進・疾病予防についての基本的な知識と看護について学ぶ。女性のライフサイクル各期の特徴を理解し、その特徴に合わせた看護を学べる内容とする。また、生命の誕生を学ぶ分野であり、自分の命や親、家族への感謝の気持ちを考える機会とし、自らの父性観・母性観を深めることができる内容とする。

#### 2. 学習目標

- 1) 母性看護を取り巻く諸状況をふまえ、母性の概念及び母性看護の意義を理解できる。
- 2) 女性のライフサイクル各期の特徴を理解できる。
- 3) 女性の健康問題への支援に必要な知識・技術について理解できる。
- 4) 自らの父性観、母性観を述べることができる。

#### 3. 授業内容

第1回	母性看護の基盤となる概念	講義
第2～3回	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	講義
第4回	母性看護の対象理解	講義
第5回	母性看護に必要な看護技術	講義
第6回	女性のライフステージ各期における看護	講義
第7回	リプロダクティブヘルスケア	講義
第8回	筆記試験(45分)	

講義計画・内容は、変更する場合がある

### 授業の進め方 / 履修上の注意

講義・グループワーク

### テキスト

森恵美著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護[1]，医学書院

### 参考図書

厚生統計協会：国民衛生の動向

太田操編：ウェルネス看護診断にもとづく 母性看護過程，第3版，医歯薬出版株式会社

### 評価方法

出席状況、授業態度、グループワーク参加状況、筆記試験を総合的に評価する。

分野	専門Ⅱ	授業科目	妊娠期・分娩期の看護		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	酒井枝津子 大島玲子	実務経験	助産師	講師所属	(酒井) 社会福祉法人 聖家族会みさかえの園 総合発達医療福祉センター むつみの家 (大島) 独立行政法人国立病院機構 佐賀病院	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

妊娠期・分娩期の生理的変化や身体的・精神的・社会的な特徴について理解するとともに、妊産婦および家族のニーズに基づく看護や保健指導について学ぶ。

#### 2. 学習目標

- 1) 妊娠期・分娩期における生理的変化とその特徴を理解することができる。
- 2) 妊娠経過の診断と必要な保健指導や母子保健サービスを学ぶことができる。
- 3) 分娩の経過と必要な援助を理解する事ができる。

#### 3. 授業内容

第1回	遺伝相談・不妊治療・妊娠期の身体的・社会的特性	講義
第2回～3回	妊婦と胎児のアセスメント	講義
第4回	妊婦と家族の看護 (母子手帳活用)	講義
第5回～6回	①妊婦検診・内診の介助 ②児心音測定・妊婦体操	演習
第7回	妊娠期の看護過程	講義
第8回	分娩の要素と分娩経過	講義
第9回	妊婦と胎児と家族のアセスメント	講義
第10回	産婦と家族の看護	講義
第11回～12回	分娩期の看護の実際	講義
第13回～14回	①産痛緩和の援助、呼吸法 ②分娩監視装置取り扱い	演習
第15回	筆記試験	

### 授業の進め方 / 履修上の注意

講義・演習 (母子手帳活用・腹囲測定・子宮底長測定・レオポルド触診・児心音測定・妊婦体操  
産痛緩和の援助・呼吸法・分娩監視装置の取り扱い・内診の介助)・グループワーク・ディスカッション

### テキスト

系統看護学講座 専門分野母性看護学 [2] 母性看護学各論 《医学書院》  
ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 《医歯薬出版株式会社》

### 参考図書

系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [1] 母性看護学概論 《医学書院》

### 評価方法

出席状況・グループワーク参加状況、演習態度、筆記試験を総合的に評価する

分野	専門Ⅱ	授業科目	産褥期・新生児期の看護		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	納富 裕子 酒井 枝津子	実務経験	助産師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校 社会福祉法人 聖家族会みさかえの園総合発 達医療福祉センター むつみの家	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

産褥期および新生児期の生理的変化や身体的・精神的・社会的な特徴について理解するとともに褥婦および新生児の看護や保健指導について学ぶ。さらに、これまでの学びを統合し母児を一体とらえた産褥期の看護過程展開を通して妊娠、分娩、産褥期は生理的現象であることや、対象のより健康な状態を自己管理ができるように援助するウェルネス思考の考え方を理解する。

#### 2. 学習目標

- 1) 産褥期の褥婦、家族の特徴を捉え、産褥期の看護を理解することができる。
- 2) 新生児の特徴を理解し、観察点を述べることができる。
- 3) 産褥期の保健指導と育児支援内容について理解することができる。
- 4) ウェルネス思考での事例を用いた看護過程の展開ができる。

#### 3. 授業内容

1回	新生児の生理	講義
2～3回	新生児アセスメント	講義
4回	新生児の看護	講義・演習
5回	産褥経過・褥婦の看護	講義・演習
6～7回	保健指導 (退院指導)	グループワーク
8～9回	保健指導模擬実施	演習
10～12回	看護過程	講義 グループワーク
13～14回	新生児の観察・身体計測・沐浴	講義
15回	筆記試験	

### 授業の進め方 / 履修上の注意

講義・演習 (沐浴)・グループワーク・ディスカッション

### テキスト

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学 [2]』森恵美 (著)《医学書院》

### 参考図書

- 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学 [1]』森恵美 (著)《医学書院》  
『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版』太田操 (編)《医歯薬出版株式会社》  
『病気が見えるVOL.10 産科』井上裕美 (監)《メディックメディア》

### 評価方法

出席状況・グループワーク参加状況、演習態度、筆記試験を総合的に評価する。

分野	専門Ⅱ	授業科目	母性機能に障害をもつ人の看護		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	2 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	井田 裕子	実務経験	助産師	講師所属	ママと赤ちゃんの家 からこ	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

- ・妊娠、分娩、産褥期に生じる異常と、ハイリスク新生児について、どのような状態のもとで正常から異常へと移行していくのか、またそれを予防し健康を維持していくためには、いかなる方策が必要であるかを学習する。対象とその家族に目を向け、ハイリスクにある対象の看護を展開するための周産期の異常についての基礎的知識を学習する。
- ・ハイリスクの状態にある妊産婦・新生児とその家族が抱えている問題について、対象の思いを尊重し考察ができる内容とする。健康障害に対する看護について、既習の病態生理の知識を基に科学的根拠に基づいた看護実践方法を学べる内容とする。さらに、女性のライフサイクルにおける健康障害として女性生殖器疾患の看護を学び、幅広い視野で母性看護を捉えられるような学習にする。事例展開を通し、対象に寄り添う看護、家族中心の看護について考察することができる内容とする。

#### 2. 学習目標

次ページに記載

#### 3. 授業内容

次ページに記載

### 授業の進め方 / 履修上の注意

講義・グループワーク

### テキスト

系統看護学講座 専門分野 母性看護 [2] 母性看護学各論 《医学書院》  
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 《医学書院》

### 参考図書

系統看護学講座 専門分野 母性看護 [1] 母性看護学概論 《医学書院》  
 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 《医歯薬出版株式会社》  
 病気が見えるVOL.10 産科 《メディックメディア》

### 評価方法

出席状況やグループワークでの参加状況・筆記試験を総合的に評価する。

授業科目	母性機能に障害をもつ人の看護	担当講師	井田 裕子
------	----------------	------	-------

## 授業概要

### 2. 学習目標

- 1) 妊娠期の異常を理解できる。
- 2) 分娩期の異常を理解できる。
- 3) 産褥期の異常を理解できる。
- 4) 新生児の異常を理解できる。
- 5) 女性生殖器疾患患者の看護を理解する。
- 6) ハイリスク妊婦の看護を理解する。
- 7) 異常分娩時の産婦の看護を理解できる。
- 8) 異常のある褥婦の看護を理解できる。
- 9) 異常のある新生児の看護を理解できる。

### 3. 授業内容

- 1) 妊娠期の異常
- 2) 分娩期の異常
- 3) 産褥期の異常
- 4) 新生児の異常

### 徳廣

第 1 回	ハイリスク妊婦の看護	講義
第 2 回	異常分娩時の産婦の看護	講義
第 3 回	異常のある褥婦の看護	講義
第 4 回	異常のある新生児の看護	講義
第 5 回	事例検討	グループワーク
第 6 回	婦人科疾患の看護	講義
第 7 回	看護過程の展開 (切迫早産・帝王切開術)	グループワーク
第 8 回	筆記試験	

分野	専門Ⅱ	授業科目	精神看護学概論		単位 (時間数)	1単位 (15時間)
					講義回数	7回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	松本和彦	実務経験	看護師	講師所属	プラスワン訪問看護ステーション 統括所長	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

精神障害の基本的な考え方を学び、精神医療の動向と看護について理解する。

#### 2. 学習目標

- 1) 精神障害の基本的な考え方が理解できる。
- 2) 精神保健医療と看護の歴史の変遷が理解できる。

#### 3. 授業内容

##### 第1章 精神看護学で学ぶこと (P2～P22)

- (1) 精神看護学とはなにか
- (2) 精神障害をもつ人の病の体験と精神看護
- (3) “こころのケア”と日本社会
- (4) 精神看護の課題

##### 第7章 社会のなかの精神障害 (P298～P369)

- (1) 精神障害と治療の歴史
- (2) 日本における精神医学・精神医療の流れ
- (3) 精神障害と分化
- (4) 精神障害と法制度

### 授業の進め方 / 履修上の注意

DVD (映画など) を用いて講義する。

### テキスト

専門分野 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎《医学書院》

### 参考図書

講義の中で適宜紹介する。

### 評価方法

終講時試験により評価する (100点)

出席・授業態度も評価対象とする。

分野	専門Ⅱ	授業科目	こころの健康			単位 (時間数)	1単位 (30時間)
						講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年		
担当講師	山下 幸司	実務経験	看護師	講師所属	中多久病院		

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

人間の各発達段階における健康な心の働きを知るための理論や方法を理解する。

#### 2. 学習目標

- 1) 人間のこころと行動について理解する。
- 2) 人格の発達と情緒体験について理解できる。
- 3) 人生各期の特徴と発達課題が理解できる。
- 4) 心身症とその看護について理解できる。
- 5) 家族支援について理解できる。

#### 3. 授業内容

<精神看護の基礎>

##### 第2章 1) 精神保健の考え方 (P24~P53)

- ①精神の健康とは ②心身の健康に及ぼすストレスの影響 ③心的外傷 (トラウマ) と回復  
④精神障害という考え方

##### 第3章 2) 心のはたらきと人格の形成 (P56~P113)

- ①心のはたらき ②心のしくみと人格の発達

##### 第4章 3) 関係のなかの人間 (P116~P142)

- ①システムとしての人間関係 ②全体としての家族 ③人間と集団

<精神看護の展開>

##### 第10章 4) 地域におけるケアと支援 (P116~P194)

- ①器としての地域 ②地域における生活支援の方法 ③地域におけるケアの方法と実際  
⑤学校におけるメンタルヘルスと看護 (P350~P372)

##### 第14章 5) ①身体疾患を持つ患者のメンタル ②リエゾン精神看護とその活動 ③リエゾナー スの活動の実際 ④看護師のメンタルヘルスへの支援

### 授業の進め方 / 履修上の注意

教科書、配布資料に基づいて講義する。

### テキスト

専門分野 精神看護学〔1〕『精神看護の基礎』《医学書院》

専門分野 精神看護学〔2〕『精神看護の展開』《医学書院》

### 参考図書

講義の中で適宜紹介する。

### 評価方法

終講時試験により評価する (100点)

出席・授業態度も評価対象とする。

分野	専門Ⅱ	授業科目	こころを病む人と医療		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	松本 和彦	実務経験	看護師	講師所属	プラスワン訪問看護ステーション 統括所長	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

精神障害の症状、診断の基礎や検査・治療について学び、代表的疾患とその治療を学習し、精神障害の基本的知識を身につける。

#### 2. 学習目標

- 1) 精神障害の分類と特徴について理解できる。
- 2) 精神障害の症状、治療、検査について理解できる。
- 3) 検査について理解できる。
- 4) 治療方法について理解できる。
- 5) 嗜好と依存について理解できる。

#### 3. 授業内容

- 1) 精神障害の分類と特徴
- 2) 医学的検査
  - ①臨床検査と生物学的背景 ②検査を知る
- 3) 心理検査
  - ①心理アセスメント ②知能検査 ③人格検査
- 4) 治療の構造
  - ①精神科における治療 ②薬物療法 ③精神療法 ④社会療法 ⑤電気けいれん療法
- 5) 嗜好と依存
  - ①依存のとらえ方 ②逸脱行動と「烙印」 ③治療・看護の特徴

### 授業の進め方 / 履修上の注意

全般的に講義形式 (パワーポイント)

DVDにての学習

グループワーク

### テキスト

専門分野 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 《医学書院》

専門分野 精神看護学〔2〕精神看護の展開 《医学書院》

### 参考図書

講義の中で適宜紹介する。

### 評価方法

終講時試験により評価する (100点)

出席・授業態度も評価対象とする。

分野	専門Ⅱ	授業科目	こころを病む人の 看護の展開		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	尾形広知 澗一郎	実務経験	看護師	講師所属	訪問看護ステーション MAGA+RE 嬉野温泉病院	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

尾形/澗

- ・こころを病む人の看護について、看護過程の展開を通して学ぶ。  
展開にあたっては、対象を全人的に捉え、対象の持てる力を引き出せるような思考過程を育てることをねらいとする。
- ・精神看護における看護の姿勢やかかわり方を理解し、診察・検査時の看護や援助技術を学ぶ。

#### 2. 学習目標

尾形/澗

- 1) 疾病と症状別看護が理解できる。
- 2) こころを病む人と家族の看護について理解できる。
- 3) こころを病む人の看護過程の展開の方法が理解できる。
- 4) 対象の理解の方法が理解できる。
- 5) ケアの方法が理解できる。
- 6) 生活障害の看護について理解できる。

#### 3. 授業内容

次ページに記載

### 授業の進め方 / 履修上の注意

教科書、配布資料に基づいて講義する。

### テキスト

- 専門分野 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 《医学書院》  
 専門分野 精神看護学〔2〕精神看護の展開 《医学書院》

### 参考図書

講義の中で適宜紹介する。

### 評価方法

終講時試験、レポート提出状況などを総合して評価する。出席・授業態度も評価対象とする。

授業科目	こころを病む人の 看護の展開	担当講師	尾形広知 渕一郎
<p><b>授業概要</b></p> <p>3. 授業内容 (尾形)</p> <p>第8章 1) ケアの人間関係 (P2~P68) ①ケアの前提 ②ケアの方法 ③関係をアセスメントする ④患者—看護師関係における感情体験 ⑤関係の視点から見た困難事例 ⑥チームのダイナミクス</p> <p>第9章 2) 回復を支援する (P70~113) ①回復の意味 ②リカバリーのビジョン ③治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点 ④リカバリーを促す環境 ⑤リカバリーを促す方法としてのグループ ⑥さまざまな回復のためのプログラム ⑦リカバリーのプロセス</p> <p>第12章 3) 身体をケアする (P256~P310) ①精神科における身体のケア ②精神科における身体を通じた看護ケアの実際 ③精神科の治療に伴う身体のケア ④身体合併症のアセスメントとケア</p> <p>第13章 4) 安全を守る (P312~P348) ①リスクマネジメントの考え方と方法 ②緊急事態に対処する ③緊急事態とスタッフ支援 ④リエゾンナースの活動の実際 ⑤看護師のメンタルヘルスの支援</p> <p>( 渕 )</p> <p>第11章 5) 入院治療の意味 (P196~P254) ①精神科を受診するということ ②治療の器としての病院・病棟 ③入院中の観察とアセスメント ④ケアの方向性を考える ⑤退院に向けての支援とその実際</p> <p>6) 事例(統合失調)を用いた看護過程の展開</p>			

# 統合分野

分野	統合	授業科目	在宅看護概論		単位 (時間数)	1単位 (15時間)
					講義回数	7回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	太田 裕美子	実務経験	看護師	講師所属		

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

在宅看護論の概念、役割、倫理が理解できる。

#### 2. 学習目標

- 1) 在宅看護の目的と特徴が理解できる。
- 2) 在宅看護が求められた社会背景が理解できる。
- 3) 在宅ケアにおける看護の役割が理解できる。
- 4) 在宅看護に求められる倫理・権利擁護について理解できる。

#### 3. 授業内容

回数	授業内容
1	在宅看護とは、在宅看護を必要とする背景
2	在宅看護の目的と特徴 ①在宅看護の目ざすもの ②在宅看護における看護師の役割
3	在宅看護の対象者 ①対象者の特徴 ②家族支援
4	在宅療養の支援 ①在宅看護の提供方法 ②療養の場の移行 ③在宅看護の基本となるもの
5	在宅看護師の倫理
6	在宅療養における権利保障 ①自己決定権 ②個人情報等の保護と情報開示 ③成年後見制度
7	訪問の実際
8	テスト (45分)

### 授業の進め方 / 履修上の注意

講義、演習、レポート

### テキスト

『系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論1』 医学書院

### 参考図書

『国民衛生の動向』

### 評価方法

筆記試験とレポート提出、授業態度などを総合して評価する。

分野	統合	授業科目	在宅看護の対象と法制度		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	小池 久美		講師所属			

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

在宅で療養しながら生活する人々及び障害を持ちながら生活する人々と、その家族を理解し在宅を支える法制度と社会資源、関係職種との連携が理解できる。

#### 2. 学習目標

- 1) 在宅における看護の特徴を理解し、在宅における看護活動が理解できる。
- 2) 在宅療養者と在宅療養者を支える家族を理解できる。
- 3) 在宅ケアを支える法制度と社会資源が理解できる。
- 4) ケアマネジメントについて理解し、他職種との協働における看護の役割を学ぶ。

#### 3. 授業内容

##### 1) 在宅看護の特徴

- ①医療施設看護との比較 ②在宅看護成立の条件 ③在宅看護の基本理念 ④地域包括ケアシステム

##### 2) 在宅療養者と家族

- ①家族とは ②家族の変遷 ③現代の日本の家族 ④在宅療養者と家族 ⑤家族をとらえる視点

##### 3) 関係職種と社会資源

- ①在宅看護にかかわる法規 ②関係機関と関連職種 ③在宅看護に関する経済的側面  
④訪問看護師の医療行為 ⑤関係職種と連携するための技術  
⑥介護保険法と関係職種の機能 (介護支援専門員について) ⑦高齢者の福祉施策の概要と在宅看護

### 授業の進め方 / 履修上の注意

講義、DVD, グループワーク、レポート

### テキスト

系統看護学講座 地域・在宅看護論 [1] 『地域・在宅看護の基盤』医学書院

### 参考図書

『国民衛生の動向』

### 評価方法

評筆記試験とレポート提出・授業態度などを総合して評価する。

分野	統合	授業科目	在宅における看護技術			単位 (時間数)	1単位 (30時間)
						講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期		通年	
担当講師	永松五百重/ 太田裕美子	実務経験	看護師	講師所属			

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

在宅看護の生活援助技術 (診療の補助技術) が理解できる。  
さまざまな状況にある療養者の援助が理解できる。

#### 2. 学習目標

- 1) 在宅における医療技術に伴う生活行動支援技術について理解できる。
- 2) 在宅看護における安全性の方法が理解できる。

#### 3. 授業内容

在宅看護技術 (永松先生)

- 1) 在宅での看護を展開するにあたって
- 2) 在宅で求められる看護技術
  - ①呼吸 ②食生活 ③排泄 ④移動・移乗
  - ⑤清潔 ⑥認知機能のアセスメント
  - ⑦コミュニケーションの支援
  - ⑧エンドオブライフケア
- 3) 在宅における医療管理を要する人の看護
  - ①褥瘡の予防とケア ②導尿留置カテーテル
  - ③ストーマケア ④経管栄養

在宅看護の実際 (太田先生)

- 1) 非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV)
- 2) 在宅人工呼吸療法 (HMV)
- 3) 在宅酸素療法 (HOT)
- 4) 在宅透析 (CAPD)
- 5) インスリン療法
- 6) 認知症療養者の在宅看護
- 7) 独居療養者の在宅看護
- 8) 終末期療養者の在宅看護
- 9) 統合失調症療養者の在宅看護

### 授業の進め方 / 履修上の注意

講義、レポート、DVD (技術)

### テキスト

『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』 医学書院

### 参考図書

講義の中で適宜紹介する。

### 評価方法

筆記試験とレポート提出、授業態度などを総合して評価する。

分野	統合	授業科目	在宅療養している人の 看護過程		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	太田 裕美子	実務経験	看護師	講師所属		

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

在宅での生活する人及びその家族の特徴をふまえた看護過程の展開が理解できる。

#### 2. 学習目標

- 1) 在宅で生活する療養者及びその家族の特徴をふまえた看護過程の展開ができる。
- 2) 在宅看護の実際を在宅看護介入期別に理解できる。
- 3) 在宅での終末期ケアの看護過程の展開が理解できる。

#### 3. 授業内容

- 1) 在宅看護過程展開のポイント
- 2) 在宅看護過程の展開方法
- 3) 在宅看護のアセスメントと関連図作成
- 4) 在宅看護介入時期別の特徴
- 5) 在宅看護の看護過程の事例展開

事例検討：(1) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 療養者の看護過程  
(2) 脳血管障害療養者の看護過程  
(3) 難病の療養者の看護過程

### 授業の進め方 / 履修上の注意

講義、個人ワーク

### テキスト

『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』 医学書院

『患者さんの情報収集ガイドブック 第2版』古橋洋子 (監) 《メヂカルフレンド社》

### 参考図書

講義の中で適宜紹介する。

### 評価方法

筆記試験とレポート提出・授業態度などを総合して評価する。

分野	統合	授業科目	統合看護技術		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	3 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	樺澤 秀美 永尾 早苗	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

### 授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)  
既習の知識・技術を統合し、臨床判断を行うための基礎的能力を身につけることができる。
2. 学習目標
  - 1) 複数患者に対する看護について優先順位を考えることができる。
  - 2) 対象の状態や状況に応じた看護を実践することができる。
3. 授業内容
  - 1) 複数患者の1日の行動計画立案  
優先順位の考え方 (時間管理、安全・安楽 他)
  - 2) 事例に応じた看護技術の実施

### 授業の進め方 / 履修上の注意

演習、グループワーク

### テキスト

#### 参考図書

任 和子 : 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅰ, 医学書院.  
 任 和子 : 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ, 医学書院.  
 上泉和子 : 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1]看護管理, 医学書院.

### 評価方法

筆記試験・演習態度・レポートにより評価する (100 点)。  
 出席・授業態度も評価対象とする。

分野	統合	授業科目	国際看護		単位 (時間数)	1単位 (15時間)
					講義回数	7回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	藤田 さやか 大室 和也	実務経験	看護師	講師所属		

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

国際社会における保健・医療・福祉の実情を知り、国際協力について主体的に考えることができる。

#### 2. 学習目標

- 1) 世界の現状と国際看護の概要が理解できる。
- 2) 異文化理解と国際看護活動が理解できる。

#### 3. 授業内容

##### 1) 国際看護学を学ぶことの意味

- ①国際社会の現状 ②ワークショップ～貿易ゲーム～ ③SDGsについて

##### 2) 国際看護活動を推進する人と機関

- ①世界における国際協力 ②国際機関が行う国際看護  
③日本が行う国際看護 (JICA・NPO/NGO)

##### 3) 異文化理解と国際看護活動

- ①文化とは? ②国際看護活動に必要な能力 ③ワークショップ～援助する前に考えよう～

##### 4) 国際看護活動の実際

- ①海外における看護活動～バヌアツ共和国での国際看護活動から ②国内の在日外国人への看護活動

### 授業の進め方 / 履修上の注意

講義とグループ型ワークショップを組み合わせた形式で行う。

### テキスト

看護の統合と実践 [3] 災害看護・国際看護

### 参考図書

- 『国際保健医療のお仕事』《南光堂》  
『国際協力師になるために』《白水社》  
『世界と恋するおしごと 国際協力のトビラ』《小学館》

### 評価方法

講義・演習態度 (出席状況、レポート提出状況等)、筆記試験を統合して評価する。

分野	統合	授業科目	災害看護		単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
					講義回数	7 回＋テスト
開講年次	3 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	秋永 和之 (消防士)	実務経験	看護師 救急救命士	講師所属	福岡看護大学 杵藤地区広域市町村圏組合消防本部	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

災害時における医療の役割を知り、災害サイクルに応じた看護を行う必要性を理解し、災害時における人々の健康や生活ニーズに応じた支援活動を行うための看護の基礎を学ぶ。

#### 2. 学習目標

##### 講義

- 1) 災害看護の基礎知識と看護について理解し、看護職の役割について考えることができる。
- 2) 災害看護に関する基礎的知識と基本姿勢について述べることができる。
- 3) 災害時要援護者の特徴と支援の必要性について述べるができる。
- 4) 災害時の被災者および援助者の心理と援助について述べるができる。
- 5) 災害サイクル各期における看護職の役割について述べるができる。

##### 演習

- 1) 災害時のトリアージの意義と方法について述べるができる。(演習)
- 2) 救急活動に必要な技術(応急処置と搬送)ができる。(演習：災害シミュレーション)

#### 3. 授業内容

##### 講義

- |                                   |                              |
|-----------------------------------|------------------------------|
| 1) 災害の定義について                      | 2) 災害のサイクルと看護活動              |
| 3) 災害時の情報収集と伝達手段<br>「METHANE」について | 4) 急性期の看護活動「CSCATTT」<br>について |
| 5) 避難所での看護活動                      | 6) 心のケア                      |
| 7) 災害時の保健活動と衛生管理                  | 8) 包帯法                       |
| 9) 広域搬送について                       |                              |

##### 演習

演習 3 回 (6 時間) : 災害対応の原則「CSCATTT」、トリアージ、救急搬送など

### 授業の進め方 / 履修上の注意

- ・パワーポイントによる講義・ディスカッション・資料配布・ビデオ学習・演習 (三角巾必要)
- ・グループワーク

演習に必要なもの : トリアージタグ (ひとり 1 枚・学校で準備)、救急搬送ボード 2 個 (病院より借用)

### テキスト

『災害看護』《メディカ出版》

### 参考図書

『DMAT 標準テキスト』一般社団法人日本集団災害医学会 (編) 《株式会社へるす出版》

### 評価方法

テスト (100 点満点)

分野	統合	授業科目	看護管理		単位 (時間数)	1単位 (15時間)
					講義回数	7回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	田川 由美子	実務経験	看護師	講師所属	新武雄病院	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

現在の看護管理は、新しいヘルスケアシステムを創造し、チームや組織、システムを動かしていく活動としてとらえられている。対象のニーズを満たす看護サービスを提供するためには、看護職同士の協働、他職種との連携、対象や対象を取り巻く家族の協力と、対象を取り巻くあらゆる資源の活用について調整と責任感のあるリーダーシップ及びマネジメントができる能力を養う。

#### 2. 学習目標

チーム医療・看護ケアにおける看護師としての調整とリーダーシップ及びマネジメントができる能力について理解できる。

#### 3. 授業内容

##### 1) 看護とマネジメント

①看護におけるマネジメント

##### 2) ケアのマネジメント

①ケアのマネジメントと看護職の機能 ②看護基準と看護手順 ③患者の権利の尊重  
④安全管理 ⑤看護職の協働 ⑥他職種との協働

##### 3) 看護サービスのマネジメント

①看護サービス、組織目的達成、協働・情報・技術のマネジメント

##### 4) 看護をとりまく諸制度

①看護職の定義 ②看護実践の領域と場 ③医療制度

##### 5) マネジメントに必要な知識と技術

①組織とマネジメント ②リーダーシップとマネジメント ③組織の調整 ④組織と個人

### 授業の進め方 / 履修上の注意

講義、レポート、グループワークなど

### テキスト

系統看護学講座 看護の統合と実践〔1〕『看護管理』《医学書院》

### 参考図書

講義中に適宜紹介する。

### 評価方法

筆記試験、レポートと授業態度などを総合的に評価する。

分野	統合	授業科目	医療安全		単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
					講義回数	7 回+テスト
開講年次	2 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	波多 純一	実務経験	看護師	講師所属	新武雄病院	

### 授業概要

#### 1. 授業のねらい (学習目的)

今日の医療現場では、強力な薬剤や優れた機器が導入され、昼夜を問わず医療行為が続けられている。看護師はそうした行為の最終的な医療行為者や観察者となることが多く、わずかな間違いや観察不足が患者の重大傷害に結びつくという日常に身を置いている。医療安全の確保には、個々の医療従事者と医療システム双方の安全強化が欠かせない。そこで、『医療安全』では看護事故の構造と事故防止の考え方を中心に講義を行う。

#### 2. 学習目標

医療安全に対する取り組みと医療事故の防止・対策を学ぶ

#### 3. 授業内容

- 1) 医療安全を学ぶことの大切さ・事故防止の考え方
- 2) 医療事故と看護業務 看護事故の構造 事故防止の考え方
- 3) 診療の補助業務に伴う事故防止 1
- 4) 診療の補助業務に伴う事故防止 2
- 5) 療養上の世話における事故防止
- 6) 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因
- 7) 医療安全とコミュニケーション
- 8) 終講時試験

### 授業の進め方 / 履修上の注意

テキストと資料を中心に講義を進める。

### テキスト

系統看護学講座 看護の統合と実践〔2〕『医療安全』《医学書院》

### 参考図書

### 評価方法

講義受講態度 (出席状況、身だしなみ、レポート提出状況等)、筆記試験を総合して評価する。